

兵庫県立健康科学研究所業務年報

令和8年度（2026年度）

兵庫県立健康科学研究所

は じ め に

兵庫県立健康科学研究所では、感染症を引き起こす細菌やウイルス、食品・飲料水中の有害物質などについて、試験検査や調査研究を行い、県民の公衆衛生の向上に資する情報発信を積極的に行っています。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、人々の往来が活発化する中、国内では、百日咳や麻疹などの患者報告数が増加し、海外においては、世界保健機構（WHO）がコンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱の流行を国際的な公衆衛生上の緊急事態として宣言する状況となっています。

このような状況の中、令和5年4月に改正地域保健法が施行され、地方衛生研究所が法定化されて3年が経過しましたが、地方衛生研究所が果たすべき役割は、これまで以上に大きくなっていると考えています。

当研究所においては、令和7年度に県立試験研究機関を対象とした包括外部監査が実施され、「備品や高圧ガス容器の管理」から「成果指標の拡充」に至るまで幅広い指摘・意見をいただきました。これを受け、今年度、第7期中期事業計画（令和6年度～令和10年度）の中間見直しを行い、業務に係る分かりやすい数値目標の拡充について検討することとしています。

このほか、令和7年4月に設置された兵庫県感染症対策センター（ひょうご CIC: Center for Infectious disease prevention and Control）については、発足後2年目を迎え、具体的な取組みを推進しているところです。

引き続き、地域保健対策の拠点としての機能を発揮できる研究所として、職員一丸となってより一層努力してまいります。

この度、令和7年度における当研究所の業務・業績を取りまとめましたので、関係の皆様にご高覧いただき、ご指導・ご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

令和8年9月

兵庫県立健康科学研究所
所長 今井 雅尚

目 次

はじめに

1 沿 革	1
2 研究所の概要	
2.1 職員数	1
2.2 施設・設備	1
2.3 組織及び分掌事務	2
2.4 職員一覧	3
2.5 職員の異動	4
2.6 試験研究主要備品	5
2.7 令和7年度決算	7
3 部の概要	
3.1 危機管理部	9
3.2 感染症部	13
3.3 健康科学部	21
4 試験検査の概要	
4.1 行政検査件数（感染症部）	28
4.2 行政検査件数（健康科学部）	29
4.3 一般依頼検査項目別手数料	30
5 調査研究課題一覧表	31
6 試験検査項目等一覧表	32
7 普及啓発活動一覧表	
7.1 研究・調査発表会	34
7.2 体験型科学教室「夏だ！サイエンス DE チャレンジ」	34
7.3 夏休み自宅科学教室	34

7.4	業務紹介パネル展示	34
7.5	県職員の研修指導	35
7.6	県職員以外の研修指導	35
7.7	研修会での講演等	36
7.8	施設見学等	37
7.9	委員会の委員等の就任	38
7.10	非常勤講師・客員研究員等の就任	39
8	学会発表一覧表	40
9	論文等発表抄録	
9.1	他誌	41
9.2	兵庫県立健康科学研究所研究報告第7号 令和7年度（2025年度）	42
10	検査結果等	
10.1.1	全数把握対象疾病の疾病別年間累積患者数	43
10.1.2	全数把握対象疾病の疾病別週別患者数	44
10.2	週報対象疾病の疾病別週別患者数	45
10.3	月報対象疾病の疾病別月別患者数	46
10.4	結核菌の同定試験	46
10.5	侵襲性肺炎球菌感染症に係る依頼検査	46
10.6	腸管出血性大腸菌感染症に係る依頼検査	47
10.7	細菌による食中毒（疑）事例の感染源，感染経路調査	47
10.8	劇症型溶血性レンサ球菌感染症に係る依頼検査	47
10.9	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症に係る依頼検査	48
10.10	その他の細菌の依頼検査	48
10.11	クドアに係る依頼検査	49
10.12	輸入ナチュラルチーズのリストeria菌の検査	49
10.13	インフルエンザウイルスの検出状況	49
10.14	豚日本脳炎ウイルス抗体保有状況	50
10.15	蚊媒介感染症の検査	50
10.16	ダニ媒介感染症の検査	50
10.17	集団嘔吐下痢症からのノロウイルス等の検出状況	51

10.18	麻しん及び風しんウイルスの検出状況	52
10.19.1	感染症発生動向調査における月別病原体検査件数（ARI 定点）	52
10.19.2	感染症発生動向調査における月別疾患別病原体検査件数 （ARI 定点）	52
10.20.1	感染症発生動向調査における月別病原体検査件数（小児科定点）	53
10.20.2	感染症発生動向調査における月別疾患別病原体検出件数 （小児科定点）	53
10.21	農産物の残留農薬試験結果	54
10.22	国産食肉の残留農薬試験結果	57
10.23	畜水産食品等の残留医薬品試験結果（輸入畜水産食品）	59
10.24	国産食肉の残留医薬品試験結果	61
10.25	輸入かんきつ類の防かび剤試験結果	63
10.26	輸入食品における指定外添加物等の試験結果	63
10.27	米の成分規格試験結果	64
10.28	遺伝子組換え食品の試験結果	64
10.29	アレルギー（特定原材料）を含む食品の試験結果	65
10.30	器具・容器包装の規格試験結果	65
10.31	貝毒検査結果	65
10.32	家庭用品（繊維製品）の試買試験結果	66
10.33	浄水の検査結果の概要	66
10.34	水道原水の検査結果の概要	67
10.35	水道水質試験の検査項目	68
10.36	水質管理目標設定項目の農薬類	69
10.37	水質管理目標設定項目の農薬類	70
10.38	温泉水の検査項目と試験結果	71

1 沿革

- 昭和 23 年 8 月 16 日 兵庫県衛生研究所規程（兵庫県規則第 78 号）が制定され、神戸市生田区下山手通 4 丁目 57 において兵庫県衛生研究所として発足
- 昭和 24 年 5 月 17 日 機構拡充により、神戸市長田区大谷町 2 丁目 13 に移転
- 昭和 43 年 4 月 20 日 保健衛生センター新築（兵庫区荒田町 2 丁目 1 番 29 号）に併せて移転
- 昭和 62 年 4 月 1 日 県立衛生研究所に改称
- 平成 14 年 4 月 1 日 組織改正により、県立衛生研究所（兵庫区）と県立公害研究所（須磨区）が統合され、県立健康環境科学研究センター（兵庫庁舎、須磨庁舎）となる。
- 平成 21 年 4 月 1 日 組織改正により、県立健康環境科学研究センターの健康部門（兵庫区）と県立生活科学総合センター（中央区）が再編統合され、県立健康生活科学研究所（健康科学研究センター、生活科学総合センター）となる。
- 平成 30 年 4 月 1 日 組織改正により、生活科学総合センターを廃止するとともに、名称を兵庫県立健康科学研究所に改め、加古川市神野町神野 1819 番地の 14 に移転

2 研究所の概要

2.1 職員数

令和 8 年 4 月 1 日現在

区 分	事務職	技 術 職			計
		医師職	研究職	その他技術職	
危機管理部	4	1	0	6	11
感染症部	0	0	10	0	10
健康科学部	0	0	8(1)	2(1)	10 (2)
小 計	4	1	18(1)	8(1)	31 (2)

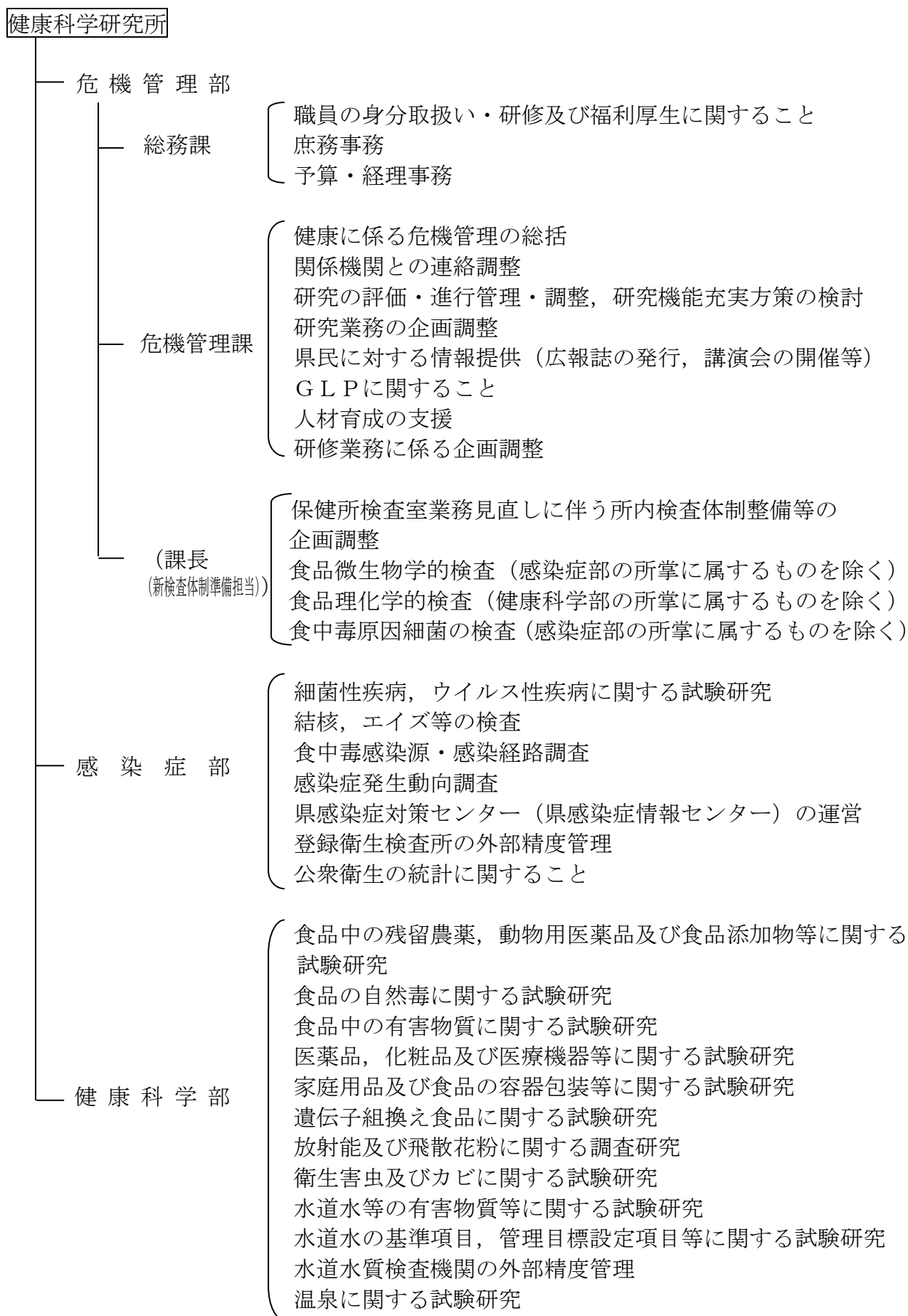
※ 所長及び副研究所長（行政職）は危機管理部に記載した。

注) () 外書き：再任用職員

2.2 施設・設備

- (1) 敷地面積 8,749.62 m²（造成分）（公有財産面積 28,206.08 m²）
- (2) 建築面積 2,134.03 m² 延べ面積 5,754.92 m²
 延べ面積内訳 本館棟（鉄筋コンクリート造 4 階建）5,718.84 m²
 車庫棟（補強コンクリートブロック造 1 階建）36.08 m²
- (3) 特殊研究設備 高度安全実験室（P3）、クリーンルーム、核種実験室

2.3 組織及び分掌事務



2.4 職員一覧

令和8年4月1日現在

部 名	職 名	氏 名
	所 長 副研究所長	今井 雅尚 市村 高子
危機管理部	部 長 総務課長 課長補佐 〃 主 査	白石 豊 (白石危機管理部長兼務) 宮下 尚典 愛久澤 あや 山本 基行
	危機管理課長 課長補佐	濱田 大輔 今井 史
	課長(新検査体制準備担当) 課長補佐 主 査	野竿 絵美 小林 美幸 池田 文絵
感染症部	部 長 課長(微生物・疫学担当) 主任研究員 〃 〃 〃 研 究 員 〃 〃 〃	押部 智宏 荻 美貴 齋藤 悦子 庄田 徹 辻田 久美子 島本 章義 池端 真帆 楠 志保 川嶋 愛理英 金城 竜也
	部 長 課長(理化学担当) 上席研究員 課長補佐 〃 主任研究員 〃 主 任 研 究 員 〃 〃 〃	藤田 裕代 吉岡 直樹 矢野 美穂 足立 綾 小島 知位子 赤松 成基 滝本 典彦 松村 益代 後藤 操 泉村 康人 安井 麻姫 森口 奈名子

2.5 職員の異動

転 出（令和 8 年度）

危機管理部	危機管理課長	小林 博之	加古川健康福祉事務所へ
危機管理部	課長補佐	山本 博一	神戸土木事務所へ
感染症部	衛生検査専門員	村上 修子	県立総合衛生学院へ

転 入（令和 8 年度）

危機管理部	危機管理課長	濱田 大輔	保健医療部疾病対策課から
危機管理部	課長（新検査体制準備担当）	野竿 絵美	宝塚健康福祉事務所から
危機管理部	課長補佐	愛久澤 あや	神戸県民センターから
危機管理部	課長補佐	小林 美幸	龍野健康福祉事務所から
危機管理部	主査	池田 文絵	保健医療部医務課から

再任用（令和 8 年度）

健康科学部	主任	松村 益代	
健康科学部	研究員	後藤 操	

2.6 試験研究主要備品

機器名	型式	数量	取得年月	価格(千円)
超遠心機	日立工機 CP-70	1	H2. 3	8, 991
原子吸光光度計	パーキンエルマー SIMAA-6000	1	H7. 6	14, 461
超ミクロトーム	ライヘルト ULTRACUT-R	1	H7. 7	5, 613
イオンクロマトグラフ	日本ダイオネクス ICS-2100	1	H12. 3	6, 646
リアルタイム PCR	PE バイオシステムズ ABI PRISM7900HT-4	1	H14. 2	15, 067
キャピラリー電気泳動装置	大塚電子 CAPI-3300	1	H15. 3	6, 562
オリンパス落射蛍光微分干渉顕微鏡	オリンパス BX61-34-FLD-1	1	H16. 3	6, 216
誘導結合プラズマ質量分析計	パーキンエルマー ELAN DRC-E	1	H17. 3	16, 989
ゲル浸透クロマトグラフ	ジーエルサイエンス G-Prep8100	1	H18. 6	5, 880
液体クロマトグラフ 飛行時間型質量分析計	アジレント・テクノロジー Agilent6210	1	H18. 6	39, 900
リアルタイム PCR	サーモフィッシャーサイエンティフィック Applied Biosystems 7500	1	H19. 9	7, 465
窒素検出器及び蛍光光度型検出器付き ガスクロマトグラフ	アジレント・テクノロジー Agilent7890ANPD	1	H20. 8	7, 630
高速液体クロマトグラフ質量分析装置	ウォータース UPLC-TQD	1	H20. 8	23, 835
リアルタイム PCR	PE バイオシステムズ ABI PRISM7900HT-4	1	H21. 8	14, 931
DNA シーケンサー	サーモフィッシャーサイエンティフィック ABI3500	1	H22. 1	17, 503
高速液体クロマトグラフ	島津製作所 Prominence UFLCXR	1	H22. 2	9, 292
ECD ガスクロマトグラフ	島津製作所 GC-2010Plus	1	H22. 2	6, 373
誘導結合プラズマ発光分光分析装置	パーキンエルマー OPTIMA 7300DV	1	H22. 3	12, 285
蛍光 X 線分析装置	エスアイイナテクノロジー SEA1200VX	1	H22. 3	9, 975
キャピラリー電気泳動・質量分析装置	アジレント・テクノロジー 7100B, 6410BA	1	H23. 3	28, 087
ゲルマニウム半導体核種分析装置	キャンベラ GC3520	1	H23. 10	19, 110

機器名	型式	数量	取得年月	価格(千円)
超遠心機	日立工機 himac CP80NX	1	H30.3	11,491
高速液体クロマトグラフ	島津製作所 Nexera XR	1	H30.3	8,640
ベンチトップ型次世代シーケンサー	ブルカー・ダルトニクス イルミナ MISEQ システム	1	H30.3	21,146
DNA シーケンサー	ライフテクノロジーズ AB3500XL	1	H30.3	24,494
トリプル四重極リニアイオントラップ 液体クロマトグラフ	エービー・サイエックス SCIEX QTRAP 4500	1	H30.3	41,191
リアルタイム PCR	サーモフィッシャーサイエンティフィック 12K/QS-W05	1	H30.3	11,955
共焦点レーザー顕微鏡	オリンパス FV3000RS	1	H30.3	30,672
マトリックス支援レーザーイオン 化飛行時間型質量分析計	ブルカー・ダルトニクス Microflex LRFMALDI Biotyper	1	H30.3	31,212
高速液体クロマトグラフ飛行時間型質 量分析計	ウォータース Xevo G2-XS UPLC/Q-ToF	1	H30.3	33,696
透過型電子顕微鏡	日立ハイテクノロジーズ HT7800 システム	1	H30.3	44,172
トリプル四重極型高速液体クロマトグ ラフ質量分析計 (食品検査)	ウォータース Xevo TQ-XS	1	H30.4	38,178
トリプル四重極型高速液体クロマトグ ラフ質量分析計 (水質検査)	ウォータース Xevo TQ-XS (UV, FL 付)	1	H30.4	42,498
トリプル四重極型 ガスクロマトグラフ質量分析計	アジレント・テクノロジー 7000D	1	H30.4	17,892
臭素酸・シアン・アニオン分析システム	島津製作所 Prominence	1	H30.4	19,202
四重極型ガスクロマトグラフ質量分析計	アジレント・テクノロジー 5977B	1	H30.4	8,802
ページ&トラップ濃縮導入装置及び 四重極型ガスクロマトグラフ質量分析 計 (揮発性有機化合物: VOC 検査)	GL サイエンス Aqua PT6000 アジレント・テクノロジー 5977B	1	H30.4	16,201
ページ&トラップ濃縮導入装置及び 四重極型ガスクロマトグラフ質量分析 計 (かび臭物質検査)	GL サイエンス Aqua PT6000 アジレント・テクノロジー 5977B	1	H30.4	16,198
リアルタイム PCR システム	サーモフィッシャーサイエンティフィック QUANTSTUDIO 5	1	R2.5	7,222
自動分注ロボットを用いた遺伝子検査 システム	ベックマン・コールター Biomek i5, i7 他	1	R2.10	99,880
原子吸光光度計	日立ハイテックスサイエンス ZA3000	1	R3.3	6,501

(注)購入価格 500 万円以上の備品を記載

2.7 令和7年度決算

2.7.1 歳入

科 目	調定額 (円)	収入済額 (円)	収入未済額 (円)
(款) 使用料及び手数料	13,729,310	13,729,310	0
(項) 使用料	14,250	14,250	0
(目) 衛生使用料	14,250	14,250	0
(節) 財産使用料	14,250	14,250	0
(項) 手数料	13,715,060	13,715,060	0
(目) 衛生手数料	13,715,060	13,715,060	0
(節) 健康科学研究所手数料	13,715,060	13,715,060	0
(款) 諸収入	166,453	166,453	0
(項) 雑 入	166,453	166,453	0
(目) 雑 入	166,453	166,453	0
(節) 雑 入	166,453	166,453	0
計	13,895,763	13,895,763	0

2.7.2 手数料の内訳

項 目	件 数	金 額
水 質 検 査 料	982 件	5,864,060 円
温 泉 分 析 試 験 料	18	1,332,000
理 化 学 的 検 査 料	46	582,000
生 物 学 的 検 査 料	347	5,937,000
	1,393	13,715,060

2.7.3 歳出

(単位：円)

科 目	予算令達額	決 算 額					
		人件費	旅 費	需用費	備品費	その他	計
健康科学研究所職員 費（給与等）	253,903,000	253,870,495					253,870,495
健康科学研究所職員 費	2,025,000	2,023,805					2,023,805
健康科学研究所運営 及び調査研究費	76,508,000	22,347,870	1,210,247	30,855,547	144,650	20,828,482	75,386,796
小計	332,436,000	278,242,170	1,210,247	30,855,547	144,650	20,828,482	331,281,096
保健衛生指導費	122,000		105,640	8,000		3,000	116,640
食品衛生指導費	14,433,000		31,480	6,393,115	1,793,000	5,935,314	14,512,909
水道法施行経費（土 木部）	253,000		2,680	249,568			252,248
大気汚染対策費	6,680,652	4,332,707	95,822	919,000	786,500	546,623	6,680,652
健康福祉事務所運営 費	3,956,000			2,198,060	790,900	869,000	3,857,960
麻薬取締実施費	32,000		31,420				31,420
薬機法等施行経費	10,291,000		8,880	4,902,734		5,357,044	10,268,658
家畜衛生対策費	1,000		1,000				1,000
水産環境保全対策費	750,000			750,000			750,000
感染症・ハンセン病 等対策費	27,662,000	3,958,210	122,440	19,482,564	847,000	2,511,717	26,921,931
行政機関からの依頼 経費小計	64,180,652	8,290,917	399,362	34,903,041	4,217,400	15,222,698	63,033,418
合計	396,616,652	286,533,087	1,609,609	65,758,588	4,362,050	36,051,180	394,314,514

※「健康科学研究所職員費」は歳出事項の総額

3 部の概要

3.1 危機管理部

危機管理部では、健康に係る危機管理の総括及び連絡調整を担っており、関係機関との連絡調整、検査機器の充実、オンライン研修による最新情報の共有等所内での環境整備を行った。

危機管理への対応及び連絡調整を適切に行うため、地方衛生研究所全国協議会近畿支部が主催する健康危機事象模擬訓練に参加し、初動対応等の点検を行った。

また、従来から関係機関からの依頼により行っている地域保健関係従事者、健康福祉事務所（保健所）の職員等を対象とした研修を実施し、人材の育成、知識・技術の向上を図った。

GLP 信頼性確保部門の業務としては、食品衛生検査施設である当研究所（2 研究部）、健康福祉事務所（5 か所）に対し、内部点検を実施し、病原体等検査の業務を行う当研究所（1 研究部）、健康福祉事務所（5 か所）に対し、内部監査を実施した。

研究支援・企画調整業務としては、社会情勢の変化や県民ニーズ等を踏まえた効果的、効率的な調査研究を進めるため、研究課題等評価調整会議で研究課題の内部評価を実施したほか、各種外部資金の積極的な獲得に向けて働きかけを行った。

情報発信・提供としては、研究報告、業務年報及び広報誌の発行並びにホームページの随時更新等により、県民及び関係機関等への情報提供を積極的に行った。

また、令和 7 年度は、体験型科学教室「夏だ！サイエンス DE チャレンジ」を開催し、地域に開かれた研究所としての取組を進めた。

3.1.1 健康危機管理

(1) 健康危機管理への対応

健康危機への対応訓練として、10 月 9 日（木）に地方衛生研究所全国協議会近畿支部が実施した、健康被害事例を想定し原因物質を究明するための健康危機事象模擬訓練に参加し、研究所の危機管

理体制に基づく初動・検査対応状況を確認した。

また、3 月 9 日（月）に感染症部の企画・運営のもと、健康危機対処計画に基づき、新型コロナウイルス感染症の大規模な検査を想定した実践型訓練を実施した。

(2) 職員を対象とした研修

最新の情報を得るべく、Web 形式による研修、研究会に積極的に参加できる環境を整え、職員の資質向上に努めた。

また、研究関係職員（転入者）の研究倫理教育のため、日本学術振興会の研究倫理 e ラーニングを受講できるようにしたほか、病原体等安全管理に係わる教育訓練や県立大学理学部、同大学先端医療工学研究所及び環境人間学部との合同研究発表会も行った。

なお、当研究所職員以外の地域保健関係従事者等に対する研修会は、7.5、7.6 に記載している。

3.1.2 GLP 信頼性確保部門業務

(1) 食品 GLP 信頼性確保部門

平成 10 年 4 月 1 日付け「兵庫県の食品衛生検査施設における検査等の業務管理要綱」（令和 4 年 4 月 1 日一部改正）に基づき、当研究所感染症部、健康科学部及び検査室設置健康福祉事務所（宝塚、加古川、龍野、豊岡及び洲本）の計 7 施設に対して内部精度管理及び外部精度管理調査の結果を確認するとともに、内部点検を実施し、検査等の信頼性確保を行った。

信頼性確保部門による内部点検は、検査の実施及びデータの作成、試薬等の管理を重要点検項目とし、定期点検 7 施設、検査項目ごとの点検 43 日 106 項目、内部精度管理に係る点検 22 日 160 項目、外部精度管理調査に係る点検 14 日 18 項目を実施した。

その結果、概ね良好な結果が得られた。

なお、令和 6 年度に引き続き食品衛生検査施設に対して自己点検を推奨するとともに、更なる効果的、効率的な内部点検の実施に努めた。

(2) 感染症 GLP 信頼性確保部門

平成 28 年 3 月 7 日付け「兵庫県検査施設における感染症病原体等検査の業務管理要領」（令和 6 年 4 月 1 日一部改正）に基づき、当研究所感染症部及び検査室設置健康福祉事務所（宝塚、加古川、龍野、豊岡及び洲本）の計 6 施設への内部監査を実施した。また、GLP 対象検査を実施した施設に対して内部精度管理及び外部精度管理調査の結果を確認し、検査等の信頼性確保を行った。

信頼性確保部門による内部監査は、定期監査 6 施設、検査項目ごとの監査 7 日 11 項目、内部精度管理に係る監査 7 日 12 項目、外部精度管理調査に係る監査 3 日 2 項目を実施した。

その結果、概ね良好な結果が得られた。

3.1.3 研究支援・企画調整

(1) 研究課題等評価調整会議の開催

12 月 22 日（月）に令和 7 年度県立健康科学研究所研究課題等評価調整会議（内部評価委員会）をオンラインにより開催し、研究課題 3 題について、事後評価及び事前評価を受けた。なお、中間評価及び追跡評価に係る研究課題はなかった。

評価結果は、事後評価及び事前評価を受けた研究課題 3 題について、採択された。

ア 事後評価

- ・（健康科学部）LC-MS/MS を用いた自然毒成分の検査方法の確立

イ 事前評価

- ・（健康科学部）食品等 に含まれる健康影響物質の分析法に関する研究
- ・（感染症部）カルバ ペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）のゲノム解析

また、上記研究課題の 3 題、について、外部評価専門委員会による外部評価（令

和 8 年 3 月 16 日開催）を受けた。

(2) 倫理審査委員会の開催

人を対象とする研究や人体より採取した試料（血液、尿等）を用いる研究の実施にあたっては、倫理的妥当性や科学的合理性が求められるとともに、個人情報等プライバシーに配慮することが不可欠である。このため、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和 3 年 3 月 23 日）に基づき、第三者を含む委員から構成する倫理審査委員会を設置し、開催状況、結果等については当研究所ホームページで公表してきた。

令和元年度からは、外部の倫理審査委員会を活用することとし、兵庫県薬剤師会学術倫理審査会において行われた審査結果を当研究所ホームページで公表している。

なお令和 7 年度は、該当する研究課題の継続申請を行い承認が得られた。

(3) 研究アドバイザーの設置

最新の技術分野の補完や現場サイドの観点からの多様な事例を踏まえた指導・助言等を得るため、外部の有識者を「研究アドバイザー」として委嘱した。

令和 7 年度は、感染症学と食品関連等の専門家の 2 名に指導、助言を依頼した。

(4) 兵庫県立大学との連携

兵庫県立大学（理学部、同大学先端医療工学研究所及び環境人間学部）と当研究所が取り組んでいる研究内容・成果をより深く理解し、今後の研究活動に役立てるため、合同で研究発表会を開催した。

令和 7 年度は、理学部、同大学先端医療工学研究所とは対面による研究発表会、環境人間学部とはオンラインによる研究発表会を開催した。

月 日	合同研究発表会内容
11. 4	○県立大学理学部・先端医療工学研究所との研究発表会 【研究発表】 ・「ミトコンドリア生体エネルギー変換における電子-プロトン共役効率は1か？」 県立大学大学院理学研究科 助教 佐藤航 ・「臨床に求められる人工知能-MRI 鑑別診断と小児脳 CT 発達解析における説明可能 AI 設計」 県立大学先端医療工学研究所 所長 小橋昌司 ・「ヒスタミン類の不揮発性アミン類の各種シリンジフィルターへの吸着及びガラスバイアルへの吸着対策について」 県立健康科学研究所健康科学部 課長 吉岡直樹 【ポスター発表】 ・「Gene expression analysis for epithelial delamination in Drosophila ovarian border cells」 県立大学大学院理学研究科 Shubhangi, 稲木美紀子 ・「ゴルジ体から始まる細胞死経路：がん細胞特異的メカニズムの解明」 県立大学大学院理学研究科 都出茉莉花, 若林貞夫, 桜井一 佐々木桂奈江, 吉田秀郎 ・「緑膿菌由来脱窒タンパク質超分子複合体の捕捉」 県立大学大学院理学研究科 谷林桜来, 當舎武彦 ・「オオカバマダラクリプトクロムの磁気受容機構解明に向けたトリプトファンラジカルの検出」 県立大学大学院理学研究科 布川巧真, 佐藤航, 久保稔 ・「リポソームの誘電泳動操作を利用した免疫分析法の迅速化」 県立大学大学院理学研究科 県立大学先端医療工学研究所 水田早紀, 磯崎勇志, 鈴木雅登 安川智之 ・「SPRING-8 を用いた黄色ブドウ球菌由来ヘム結合タンパク質の超高分解能 X 線構造解析」 県立大学大学院理学研究科 理化学研究所放射光科学研究センター 吉田昌紘, 杉本宏 ・「はちみつ中に含まれる小麦アレルギー分析法の検討」 県立健康科学研究所健康科学部 安井麻姫, 吉岡直樹, 藤田裕代 【意見交換】出席者 46 名

11. 11	○県立大学環境人間学部との研究発表会 【研究発表】 ・「クダア属粘液胞子虫について」 県立健康科学研究所感染症部 齋藤悦子 ・「時間栄養学の視点からひもとく 朝食摂取の意義」 県立大学環境人間学部 食環境栄養課程教授 永井成美 【意見交換】出席者 69 名
--------	--

(5) オンライン文献検索システム (JDream) の利用

洋雑誌の高騰、予算縮減の中、研究に必要な文献検索を十分に実施できるよう、専門図書購読に代え平成 17 年 4 月より固定料金制のオンライン文献検索システム (JDream) を導入している。

令和 7 年度の検索実績は 110 回であった。

3.1.4 情報発信・提供

(1) 体験型科学教室「夏だ！サイエンス DE チャレンジ」の開催

地域に開かれた研究所を目指して、小学生・中学生の夏休みの自由研究に役立ててもらうため科学実験を行う体験型科学教室を 7 月 28 日(月)に開催した。実験テーマは次表のとおりで 25 名が参加した。

実験テーマ	担当部
微生物を見てみよう！ ・手の汚れを見てみよう ・顕微鏡で見てみよう	感染症部
身のまわりの水について調べてみよう！ ・水の硬度を調べよう	健康科学部

(2) 夏休み自宅科学教室の実施

地域における科学技術の学習機会を提供するために、夏休み自宅科学教室とし、当研究所ホームページに実験テキストを掲載した。

実験テキストは次表のとおり。

実験テキスト	担当部
小麦粉からガムを作ろう	健康科学部
納豆菌を阻止できるかな？	感染症部
微生物を培養しよう	感染症部
夏の大敵！蚊について調べてみよう	感染症部
結晶を作ってみよう	健康科学部
感染症について調べてみよう	感染症部
ビタミンCを測ろう	健康科学部

(3) 広報誌の発行

広報誌「健科研リポート」を年2回発行し、ホームページに掲載するとともに兵庫県公式 Instagram で発信し、広く県民に情報提供を行った。

当研究所の業務を県民に対して分かりやすく解説するため、話題性を考慮した特集記事、トピックス、インフォメーションとして編集している。

第30号（令和7年8月発行）の特集では、“PFOS 及び PFOA について”，トピックスでは，“結核”を掲載した。

第31号（令和7年12月発行）の特集では，“薬剤耐性菌”，トピックスでは，“危険ドラッグについて”を掲載した。

(4) 兵庫県広報誌「GOKOKU 県民だより兵庫」での情報発信

兵庫県広報誌「GOKOKU 県民だより兵庫」7月号（東播磨県民局からのお知らせ Information）で体験型科学教室「夏だ！サイエンス DE チャレンジ」の参加者募集、2月号（東播磨県民局からのおしらせ）で施設紹介を掲載した。

(5) Instagram での情報発信

食物アレルギーの原因となるアレルゲン検査を実施し、県内の食の安全安心に貢献していることや、他にも食物アレルギーのイベントでパネル展示による普及啓発を行っていることを情報発信した。

(6) ホームページの運営

県民生活の安全と安心を守るため、調査研究結果や感染症、食品、医薬品、飲料水等に対する科学的・技術的情報について、ホームページを通じて広く県民に提供している。

令和4年度から引き続き、兵庫県のホームページを活用して当研究所の情報を発信している。

その結果、トップページへのアクセス件数は12,651件であった。

3.2 感染症部

感染症部では、主として次の業務を所管している。

- ①「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）に基づく病原体検査や病原体サーベイランス、病原体の性状等に関する調査研究
- ② 令和7年4月1日に設置した感染症対策センターから新型コロナウイルス感染症をはじめとした各種感染症患者の発生動向等を県民や関係機関に提供
- ③「食品衛生法」に基づく食中毒原因微生物の特定や感染源調査

その他、行政ニーズに基づいた様々な試験研究や情報提供を行い、感染症対策や食中毒対策等を科学的に支援している。具体的には、次の業務を重点的に実施している。

【食中毒、感染症対策等への支援】

食中毒事案発生時の原因微生物の特定、麻しん、風しん、日本紅斑熱、つつが虫病等の病原体検査を行うほか、依然として県内で多くの患者が発生している結核対策の一環として、結核菌の遺伝子型別（VNTR 法）分析を行い、得られたデータを関係機関と共有して、感染源や感染経路の調査を支援している。

【輸入感染症の侵入監視】

オリンピックや万博等、多くの人が集まるマスコザリング対策として、MERS（中東呼吸器症候群）、デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、エムボックスなど、散発する輸入感染症の検査体制を整備している。

【新型コロナウイルス変異株の動向監視】

世界的に流行した新型コロナウイ

ルスの変異動向を把握するため、全ゲノム解析により変異株を同定する体制を整備し、継続的に解析している。

【感染症対策センターによる情報提供】

医療機関からの感染症患者発生報告を疾病ごとに、地域や年齢別に集計・解析した情報、病原体の検出結果、インフルエンザ流行期の学校の欠席状況及び新型コロナウイルスの地域や年齢別に集計・解析した情報等を週報・月報として取りまとめ、ホームページ等を活用して県民や関係機関に情報提供している。

【薬剤耐性対策に係る調査・分析】

WHOで世界的な課題とされている薬剤耐性対策の一環として、腸内細菌、結核菌、インフルエンザウイルス等の薬剤耐性遺伝子の保有状況等の調査・分析を行っている。

【試験検査の信頼性確保】

食品 GLP、感染症 GLP の遵守を徹底するとともに、外部精度管理事業にも参加し、各種微生物検査の信頼性確保を図っている。

3.2.1 調査研究

(1) ダニ媒介感染症のゲノム解析体制の整備に関する研究

国内で発生がみられるダニ媒介感染症には主なものとして重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、日本紅斑熱、つつが虫病があげられる。本研究は、近年増加傾向にある日本紅斑熱を中心に、上記3種のダニ媒介感染症のゲノム解析実施体制を確立することを目的とする。

令和7年度の行政検査でPCR陽性となった患者のうち7名の臨床検体8検体（血液5検体、痂皮3検体）からリケッチアの分離を試みたが、分離できなかった。

令和7年度のSFTS陽性3検体についてゲノム解析を試みた。2検体でS, M, L分節の一部を除く配列をMiseqで得るこ

とがでた。gap 領域はサンガーシーケンスで埋めることで、両端領域を除くコンセンサス配列が得られた。系統樹解析を実施したところ 1 検体は日本系統に分類され、1 検体は中国系統に分類された。

(2) ノロウイルスをはじめとする胃腸炎ウイルスにおける全ゲノム解析の確立に関する研究

胃腸炎ウイルスにおいて全ゲノム解析手法を確立し、流行株における遺伝的変異の解析、流行状況の把握、食中毒事例の分子疫学的な追跡等を行うことを目的とする。

令和 7 年度では、NoV GⅡ.17[P17]について 18 株解析し、16 株について全ゲノム配列を得た。解析結果は、3′ 末端側では高いリードカバレッジが認められた一方、5′ 末端側ではカバレッジの低下がみられた。これは、ウイルス RNA のポリ(A)構造とオリゴ d(T)との結合を利用したゲノム回収法の影響による可能性が考えられた。

3.2.2 試験検査

(1) 細菌等の検査

ア 侵襲性肺炎球菌感染症感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)

定期予防接種導入(PCV7/PCV13/PCV15/PPSV23)による侵襲性肺炎球菌感染症に対する効果を確認するため、医療機関で分離された肺炎球菌菌株について、血清型別を実施した。

令和 7 年度は 15 検体を精査し、小児由来の 2 株は 38 であり、ワクチン非含有血清型であった。

イ 結核菌の検査

健康福祉事務所・保健所(以下「健康福祉事務所等」という。)から検査依頼があった 112 検体について遺伝子型別(VNTR 法)(24Beijing 法)分析を行った。このうち 32 菌株が新たに同一遺伝子型のクラスターを形成し、1 菌株が菌量不足のため型別不能であった。

ウ 腸管出血性大腸菌感染症に係る依頼検査

健康福祉事務所等から依頼のあった腸管出血性大腸菌 54 菌株(0157 25 株, 026 19 株, 0103 3 株, 038 2 株, 0145 2 株, 091 1 株, 0113 1 株, 0128 1 株)について血清型別、毒素型別を実施した。さらに、広域関連事例の検出に有用な MLVA 解析を実施し、国立感染症研究所で実施された結果と一致することを確認した。

エ 食中毒(疑)発生時の細菌検査

健康福祉事務所で食品やふき取り検体から分離されたセレウス菌について、毒素産生試験とセレウリド遺伝子検出を実施した。

オ クドア(寄生虫)が原因と疑われる食中毒(疑)の検査

生食用鮮魚を喫食後に発生した食中毒(疑)(一過性の嘔吐下痢症)原因を明らかにするため、6 事例の鮮魚残品 6 検体(マグロ 2, タイ 1, サワラ 3)と喫食者便 20 検体について、寄生虫 *Kudoa septempunctata*, *Kudoa iwatai* 及び *Kudoa hexapunctata* 遺伝子の検査を実施した。その結果、2 事例の喫食者 10 名中 8 名から *Kudoa septempunctata* 遺伝子を、2 事例の鮮魚残品 2 検体(サワラ)から *Kudoa iwatai* 遺伝子を検出した。顕微鏡検査の結果、このうち 1 事例のサワラ 1 検体から 4 つの極嚢を有する胞子を $3.0 \times 10^6/\text{g}$ 検出した。

カ 輸入ナチュラルチーズのリステリア菌の検査

食品衛生監視指導の一環として、販売店で収去された輸入ナチュラルチーズ 15 検体について、リステリア菌(*L. monocytogenes*)の検査を行った。その結果、検体からリステリア菌は検出されなかった。

キ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症に係る依頼検査

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者 9 人から分離された 10 菌株をリ

ファレンス近畿支部センター経由で国立感染症研究所に送付した。EMM 型等の詳細な解析により、国内で優勢な溶血性レンサ球菌の型の把握に活用された。

ク 侵襲性肺炎球菌感染症に係る依頼検査

侵襲性肺炎球菌感染症の患者 1 人から分離された 1 菌株について、遺伝子検査により血清型を同定し、ワクチンに含まれる血清型との相違を明らかにした。

ケ CRE 感染症に係る依頼検査

CRE 感染症の患者 18 人から分離された 18 菌株(*K. pneumoniae* 7 株, *E. coli* 4 株, *S. marcescens* 3 株等)について, modified carbapenem inactivation method (mCIM) 法によるカルバペネマーゼ検出, 阻害剤による薬剤耐性スクリーニング試験, 薬剤耐性遺伝子の検出及び型別試験を実施した。

コ その他の細菌等の依頼検査

レプトスピラ症疑い患者 2 名から採取した血液, 髄液, 尿を国立感染症研究所に送付し, レプトスピラ抗体検査及び遺伝子検査を依頼した。結果はレプトスピラ抗体, 遺伝子ともに陰性であった。

髄膜炎菌感染症患者から分離された髄膜炎菌を国立感染症研究所に送付し, 血清群, 遺伝子型及び薬剤感受性の検査を依頼した。血清群は Y 群, 遺伝子型は ST-1466, ペニシリン G に対して非感受性を示した。

その他, ジフテリア菌 1 株のジフテリア毒素検出, コレラ菌 2 株 (1 人分) の毒素遺伝子検出及び血清型別, サルモネラ属菌 13 株の血清型別, 大腸菌 9 株の血清型別及び病原遺伝子検出を行った。また, カンピロバクター属菌 4 株の同定を行った。

オウム病疑い患者から採取した検体の遺伝子検査を実施し, 陰性であった。血液を国立感染症研究所に送付し,

オウム病抗体検査を依頼した。結果はオウム病抗体陽性であった。

(2) ウイルス及びリケッチアの検査

ア インフルエンザ集団感染事例等におけるインフルエンザウイルスの検査

インフルエンザの流行初期, 流行期に小学校や保育所等においてインフルエンザ様疾患患者が集団発生した事例について, 健康福祉事務所の依頼により, インフルエンザウイルスの検査を実施した。

2 検体搬入され, AH3 型ウイルスが 2 件検出された。

イ 感染症発生動向調査におけるインフルエンザウイルスの検査

県内のインフルエンザの流行状況を把握するため, 指定提出機関で採取された検体のインフルエンザウイルス検査を行った。

(ア) 検体の搬入

令和 7 年 4 月 1 日～6 日までに 20 か所の指定提出機関うち 2 か所から咽頭, 鼻腔ぬぐい液等の 2 検体が搬入された。

(イ) 検出状況

2 検体中インフルエンザウイルス B 型 (Victiria 系統) が 2 件検出された。

ウ 保健所の依頼に基づくインフルエンザウイルス分離

インフルエンザウイルス陽性検体について, 保健所の依頼によりインフルエンザウイルス分離を実施した。

32 検体搬入され, AH3 型が 13 件, B 型 (Victiria 系統) が 7 件検出された。

エ 令和 7 年度新型インフルエンザウイルスの出現監視を目的とした感染源調査 (厚生労働省感染症流行予測調査)

新型インフルエンザウイルスの出現監視を目的として, 県内産の豚の鼻腔スワブからインフルエンザウイル

スの分離を行った。6月から3月にかけて毎月10頭、合計100頭から検体を採取した。

その結果、全ての検体からインフルエンザウイルスは分離されなかった。

オ 令和7年度日本脳炎感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)

日本脳炎の発生を未然に予測し、その予防対策を効果的に行うため、11か月未満の豚血清中の日本脳炎ウイルスに対する赤血球凝集抑制(HI)抗体を測定し、日本脳炎ウイルスの活動状況を調査した。6月から9月にかけて県内飼育ブタから8回にわたり採血し、1回当たり10頭、合計80頭分の血清を検査した。

その結果、日本脳炎ウイルスのHI抗体は検出されなかった。

カ 令和7年度ロタウイルス感染症感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)

定期予防接種導入による重症ロタウイルス感染症に対する効果を確認するため、医療機関で採取された感染性胃腸炎患者糞便6検体について検査を実施し、6検体から同ウイルス遺伝子が検出された。

キ 蚊媒介感染症の検査

デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症の流行地域に渡航歴があり、発熱、発疹等の症状を呈した患者や渡航歴がなくてもこれらの疾病が疑われる患者を対象として、健康福祉事務所の依頼により、リアルタイムRT-PCR法による検査を実施した。

疑い患者6人から採取された血液、尿の13検体を検査した結果、3人からデングウイルスが検出された。このうち2人は3型、1人は1型であり、推定感染地域はインドネシアであった。

ク 急性呼吸器感染症(ARI)病原体サーベイランス

急性の上気道炎(鼻炎、咽頭炎等)または下気道炎(気管支炎、肺炎等)

の原因ウイルスの流行状況を把握するため、13か所のARI定点医療機関で採取された患者検体のウイルス検査を実施した。

令和7年度に検体採取された患者の鼻咽頭ぬぐい液等1074検体のうち、187検体からインフルエンザウイルス、145検体から新型コロナウイルス、143検体からライノウイルス、104検体からパラインフルエンザウイルス、53検体からRSウイルス、12検体からヒトメタニューモウイルス、9検体からアデノウイルス、5検体からエンテロウイルスが検出された。

新型コロナウイルス陽性となった検体145件の内117件のゲノム解析を行った。

国立感染症研究所の解析プラットフォーム(PathoGenS)による系統解析の結果は以下のとおりである。7月から12月にかけてNB.1.8.1系統が103件と大半を占めていた。4月から8月にかけては、JN.1系統とKP.3系統の組換え体であるXEC系統が9件、XFG系統が4件、QC系統が1件検出された。

ケ 感染症発生動向調査における病原体検査(小児科定点)

感染症の原因となる病原体の県内の流行状況を把握するため、5か所の小児科定点医療機関で採取された患者検体の病原体検索を行った。令和7年度に検体が採取された55人の患者の咽頭ぬぐい液、髄液、便等63検体の検査を行った。

(ア) 感染性胃腸炎

9人の患者のうち、4人からノロウイルスGⅡ.4、1人からノロウイルスGⅡ.17、2人からA群ロタウイルスが検出された。A群ロタウイルスが検出された1人はライノウイルスも検出された。

(イ) RSウイルス感染症

27人の患者のうち、6人からRSウイルスA型、10人からRSウイル

ス B 型が検出された。そのうち、ライノウイルスとの重複感染が 5 例、ヒトメタニューモウイルスとの重複感染が 1 例あった。

コ 日本紅斑熱及びつつが虫病リケッチアの検査

県内で散発する日本紅斑熱の原因リケッチアである *Rickettsia japonica* の遺伝子検査及び抗体検査を健康福祉事務所等からの依頼により実施した。また、医療機関等からの検査希望が多いつつが虫病リケッチア (*Orientia tsutsugamushi*) についても、遺伝子及び 5 種の抗原を用いた抗体検査を実施した。

日本紅斑熱は 36 人から採取された血液、痂皮等 96 検体の依頼があり、12 人が陽性であった。つつが虫病は 30 人から採取された血液、痂皮等 80 検体について検査を実施し、1 人が陽性であった。

サ 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) ウイルスの検査

重症熱性血小板減少症候群を疑う患者について、健康福祉事務所等からの依頼により、30 人から採取された血清等 38 検体について遺伝子検査を実施し、3 人から同ウイルス遺伝子が検出された。

シ A 型及び E 型肝炎ウイルスの検査

健康福祉事務所の依頼により、A 型肝炎ウイルスについて、患者 1 人から採取された血液及び糞便の 2 検体を検査し、同ウイルス遺伝子が検出された。また、E 型肝炎ウイルスについて、患者 1 人から採取された血液及び糞便の 2 検体を検査した結果、陰性であった。

ス HIV の確認検査

平成 17 年度から健康福祉事務所において HIV 抗体スクリーニング検査が行われており、当研究所ではスクリーニング検査陽性となった検体の確認検査を実施している。令和 7 年度に

おいては、健康福祉事務所からの依頼がなかったため、確認検査は実施しなかった。

セ 市販生食用かきのノロウイルス検査

例年、市販生食用かきのノロウイルスによる衛生上の危害を防止するため、流行期の 12 月から 2 月に試買調査を実施しているが、今年度は播磨灘各地において生食用かきが不漁であったため、検査は中止となった。

ソ ウイルスによる集団胃腸炎事例の感染経路、感染源調査

集団胃腸炎事例について、感染経路、感染源を追求するため、健康福祉事務所の依頼により、ノロウイルス及びサポウイルスの検査を実施した。

(ア) 発生状況

健康福祉事務所から 23 事例の検査依頼があり、全て食中毒事例（有症苦情事例を含む）であった。原因施設の内訳は、22 事例が飲食店、1 事例が製造業であった。

(イ) 感染経路

23 事例は全て食品等を介した感染が疑われた事例であった。

(ウ) 感染源

23 事例 121 検体（有症者便 58 検体、調理従事者便 46 検体及び拭き取り 17 検体）について検査し、16 事例 62 検体からノロウイルスが検出された。

(エ) 遺伝子型別検査

ノロウイルス陽性 16 事例の遺伝子型の内訳は、GⅡ.17 が 11 事例、GⅡ.4 が 4 事例、型別不能が 1 事例だった。

タ 麻しんウイルスの検査

健康福祉事務所等からの依頼により、麻しん疑い患者 56 人から採取された血液、咽頭ぬぐい液等 156 検体について、麻しんウイルスの遺伝子検査を実施した。1 人から麻しんウイルス（遺伝子型 D8）が検出された。

チ 風しんウイルスの検査

風しん排除に向けた取組の一環として、健康福祉事務所等からの依頼により、風しん疑い患者 42 人から採取された血液、咽頭ぬぐい液等 114 検体について遺伝子検査を実施した。全て風しんウイルス陰性であった。

ツ 令和 7 年度新型コロナウイルス下水サーベイランス(厚生労働省感染症流行予測調査)

下水処理場を採水定点として設定、下水中の新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)ゲノム量と定点あたり患者報告数を比較することで、感染動向を把握するための補完情報とすることを目的とする。

県内 2 地点で採水した下水 100 検体の検査を行った。すべての検体から SARS-CoV-2 が検出され、ウイルス RNA 濃度とそれぞれの下水処理区の管轄健康福祉事務所(保健所)の患者報告数と比較し、国立感染症研究所の感染症流行予測調査速報のサイトで公表した。

(3) 外部精度管理

ア 令和 7 年度は厚生労働省が実施した外部精度管理事業の課題 1(腸管出血性大腸菌の遺伝子検査)、課題 2(麻しん・風しんウイルスの遺伝子解析)、課題 3(SARS-CoV-2 の次世代シーケンシングによるゲノム解析)に参加し、良好な結果が得られた。

また、結核研究所が実施した結核菌遺伝子型別(VNTR 法)外部精度評価に参加し、良好な結果が得られた。

イ 厚生労働科学研究「国立健康危機管理研究機構と地方衛生研究所の感染症検査ネットワーク強化の研究」分担研究「寄生虫症サーベイランスのためのネットワーク強化に関する研究」におけるクリプトスポリジウム検査の外部精度管理調査に参加した。配布された糞便検体について蛍光抗体法による検査を行った結果、良好な結果が得られた。

ウ 国立感染症研究所エイズ研究センターが実施する「令和 7 年度 HIV-1 核酸増幅検査外部精度管理調査研究」に参加し、定性 NAT 検査法の評価において「検出／検出せず」の判定に問題はなかった。一方、陽性対照検体の Ct 値については、想定より高い数値となった。

(4) 受託及び共同研究

感染症媒介蚊発生動向調査

県疾病対策課の依頼に基づき、蚊媒介感染症対策の基礎資料とすることを目的とした媒介蚊の定点モニタリング調査を 6 月から 10 月の 5 回、当研究所敷地内及び兵庫県庁の庁舎敷地内の 2 箇所で行った。

その結果、当研究所敷地内では、ヒトスジシマカが 198 頭、コガタアカイエカが 161 頭、アカイエカが 10 頭、シナハマダラカが 7 頭、キンパラナガハシカが 4 頭、ヤマトクシヒゲカが 1 頭、捕集された。

兵庫県庁の庁舎敷地内では、ヒトスジシマカが 59 頭、アカイエカが 12 頭、捕集された。

3.2.3 兵庫県感染症対策センター

(1) 兵庫県感染症対策センターの設置

大学等の専門家の専門的知見を活用した感染症対策を推進するため、令和 7 年 4 月 1 日に「兵庫県感染症対策センター」が当研究所に設置された。

また、同センター事業の企画・運営等の業務を行うため、非常勤の県立健康科学研究所参与(7 名)が当研究所に配置された。

同センターでは、兵庫県感染症情報センターの運営その他感染症に係る情報発信の他、感染症対応に係る人材の育成や感染症対策に資する調査研究等を行うこととしている。

(2) 県感染症情報センター

ア 感染症発生動向調査週報患者情報分析

県内の感染症発生動向を把握するため、感染症法及び「兵庫県感染症予防計画」に基づく感染症発生動向調査が継続的に実施されている。

当研究所は基幹地方感染症情報センターとして、政令市を含む県下の医療機関からの感染症患者情報を分析し、週報として健康福祉事務所等、市町、医師会、医療機関等に還元すると共に、ホームページを通じて広く県民に公開している。

感染症法の対象疾病のうち、全数把握の疾病（87 疾病）は県内全ての医療機関から、定点把握の週報対象疾病については、令和 7 年 4 月 6 日まではインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）及び新型コロナウイルス感染症が県下 199 定点から、小児科対象の 10 疾病が 129 定点から、眼科対象の 2 疾病が 35 定点から、病院対象（基幹定点）の 5 疾病が 14 定点から、毎週、健康福祉事務所等を通じて報告されていた。令和 7 年 4 月 7 日以降は、急性呼吸器感染症が追加され、インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）及び新型コロナウイルス感染症と共に、急性呼吸器感染症定点対象の疾病となった。同時に、急性呼吸器感染症定点対象疾病と小児科対象疾病の定点数が増え、急性呼吸器感染症定点対象の 3 疾病が県下 163 定点から、小児科対象の 10 疾病が 105 定点からの報告となっている。

令和 7 年は、全数把握の疾病延べ 5,454 人、定点把握の週報対象疾病延べ 511,883 人の患者報告があり、毎週これらのデータを集計、解析して各種感染症の動向に関するコメント及びグラフ等を掲載した週報を 52 報発行した。

イ 感染症発生動向調査月報患者情報分析

上記の週報対象疾病と同様に、月報

対象疾病についても情報分析を行っている。定点把握の月報対象疾病は、性感染症の 4 疾病が県下 46 定点から、病院対象（基幹定点）の 3 疾病が 14 定点から毎月、健康福祉事務所等を通じて報告される。

令和 7 年は、定点把握の月報対象疾病延べ 3,031 人の患者報告があり、毎月各疾病の発生状況を分析して、コメント及びグラフ等を掲載した月報を 12 報発行した。

ウ 感染症発生動向調査年報患者情報分析

感染症法の対象疾病である一類から五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症の合計 114 疾病（全数把握 87 疾病、定点把握 27 疾病（令和 7 年 4 月 7 日から。なお、令和 7 年 4 月 6 日までは、全数把握 87 疾病、定点把握 26 疾病））について、週報及び月報で報告した患者発生状況を取りまとめ、週別/月別、保健所別、年齢階級別の患者数等にコメントを付けて、年報として編集している。

令和 6 年の兵庫県感染症発生動向調査事業年報は、令和 8 年 1 月末に冊子として発行し、健康福祉事務所等、市町、医師会や医療機関等に配布するとともに、ホームページに掲載して広く県民に情報提供した。

エ 感染症対策センターホームページリニューアル

県民の方々が感染症の流行状況を分かりやすく理解し、また必要な感染症対策を早期に確認できるよう、感染症情報センターのホームページを令和 7 年 3 月 24 日よりリニューアルし、タイトルを「感染症対策センター」とした。

感染症に罹患しやすい小児に向けた情報発信を強化し、また、新たにビジネス分析プラットフォームを用いることで、ホームページ上で、過去の発生状況を閲覧・比較できるようにした。

オ インフルエンザ情報センターからの情報提供

新型インフルエンザ（H1N1）流行対策の検証委員会の提言に基づき、インフルエンザに関する情報を一元的に管理提供するため、学校サーベイランス、医療機関情報及び広域・救急医療情報の 3 つのシステムのポータルサイトを県の感染症情報センターホームページ上に設け、感染症発生動向調査情報との一体的な情報提供を図ってきたが、ホームページリニューアルを機に感染症対策センターのインフルエンザ情報として情報提供を行うこととした。

3.3 健康科学部

健康科学部では、当研究所における理化学分野の業務を担当し、主に次の5項目に関する調査研究、試験検査及び研修指導を行い、県民の安全で安心な生活を確保するための施策の推進に寄与している。

- ①食の安全と安心の確保のための試験研究
- ②医薬品の規格及び不正使用に関する試験研究
- ③水道水の安全性確保に関する試験研究
- ④温泉に関する試験研究
- ⑤花粉飛散量や環境放射能の調査研究

食品の試験検査は、主に「兵庫県食品衛生監視指導計画」に基づく収去検査である。農産物や食肉中の残留農薬、残留動物用医薬品、食品中の食品添加物やアレルギー物質、さらに遺伝子組換え食品及び家庭用品中の有害物質等について試験研究を行った。

医薬品の試験検査は医薬品等一斉監視指導の後発医薬品品質確保対策に基づいて実施した。また、ジェネリック医薬品・バイオシミラー品質情報検討会に係る医療用医薬品試験として後発医薬品の溶出試験を行った。

水道原水及び水道水の試験検査については、「兵庫県水道水質管理計画」に基づく水質監視地点の検査及び市町からの依頼検査等を行った。また、県内の水質検査機関の外部精度管理調査を実施した。

温泉の試験検査は、温泉に含まれる成分及び可燃性天然ガス（メタン）を対象項目として実施した。

突発的な食品や飲料水の事件や事故等が発生した場合は、日常業務や調査研究等で培った試験検査技術を駆使して検査や必要なデータ提供ができる体制を整えている。

県のアレルギー疾患対策の一環として、花粉症予防のためにスギ・ヒノキの花粉飛散時期には毎日、それ以外の時期は1

週間単位で飛散花粉数を測定し、ホームページ等で情報発信した。

放射能に関わる調査として、原子力規制庁からの委託事業である「環境放射能水準調査」を実施した。

研修指導については、健康福祉事務所検査担当者等を対象に実施した。

なお、以下の調査研究は、国、全国の地方衛生研究所等の関係機関にも情報提供しており、科学的根拠に基づく行政の推進に貢献している。

3.3.1 調査研究

(1) 医薬品試験における試験条件変更の影響について

後発医薬品（ジェネリック医薬品）は、先発医薬品と治療学的に同等であるものとして製造販売が承認されたものであるが、後発医薬品の品質に対する患者や医療関係者の信頼は必ずしも高いとは言えない状況にある。当研究所においても、従来から厚生労働省等と連携して市場に流通している後発医薬品の溶出試験を実施しており、品質に対する信頼性の向上に寄与している。試験は対象製剤により異なるが、日本薬局方では令和4年12月に公布された第十八改正日本薬局方第一追補で、一般試験法「2.00クロマトグラフィー総論」が新設され、クロマトグラフィーの様々なパラメーターについて調整することができる範囲が具体的に示された。その規定された範囲内での試験条件の変更により生じる影響について、液体クロマトグラフィーの各種パラメーターのような分析化学的な視点だけでなく、試験時間や試験コスト等も含めた多角的な評価を行うことを目的とした。

令和7年度は、日局の医薬品各条で汎用される液体クロマトグラフィーを用いた試験法の中から、イソクラティック溶離のモデルとしてロサルタンカリウム・ヒドロクロロチアジド錠及びピタバスタチンカルシウム錠の溶出性を選択し、試験条件変更の影響を検討した。具

体的には、試験法の主に移動相の流量及び水系組成についてクロマトグラフィー条件の調整を行い、保持時間及び理論段数等への影響を調査した。

流量については、流量の増加による保持時間、理論段数及び分離度の減少が確認された。このほか水系組成の pH 及び緩衝液組成の塩濃度は規定の範囲内で調整したところ、保持時間及び理論段数等に変化が見られたが、定量において特に大きな影響は見られなかった。

(2) 水道水及び原水中の逐次改正対象項目及び要検討項目等の分析法に関する研究 (2) -GC/MS や GC/MS/MS による分析技術での対応-

水道法で規定されている水道水質基準には、水道水として必ず適合すべき「水質基準項目」の他に「水質管理目標設定項目」、「要検討項目」があり、最新の科学的知見に基づき逐次見直しが行われている。このような国等の動向に注視し、逐次改正に遅滞なく対応するとともに、依頼検査、水質危機管理時の原因究明の試験検査等を高精度かつ迅速に行うための分析法の検討等を行うことを目的とした。本研究では、ガスクロマトグラフ/質量分析装置 (GC/MS) 分析に適した化合物を対象に検討を実施した。

令和 7 年度は水質管理目標設定項目である農薬類のうち、GC/MS 対象となる農薬類及びその代謝物 10 物質を対象とし、検量線及び添加試料の評価を行った。その結果、8 物質は検量線及び添加試料について真度、併行精度ともに良好な結果が得られた。一方で 2 物質については添加試料の真度が低いため不適であり、現在の測定機器や前処理方法の見直しが必要であることが確認された。

(3) LC-MS/MS を用いた動物用医薬品分析法の確立

動物用医薬品は、家畜の疾病の治療、予防を目的として使用されているが、不適切な使用による食品中への残留及び

摂取によるヒトへの健康影響が懸念される。現在も新規動物用医薬品の開発が行われていることや食の嗜好の多様化により、今後食の安全において予測困難なリスクが発生する可能性がある。そのため、危機事案に際して、より迅速に対応可能な検査体制の整備が重要と考えられる。現在当研究所では牛肉等についてテトラサイクリン系、キノロン系及びサルファ剤の検査を実施しているが、魚介類、鶏卵及び牛乳については検査実績がほとんどなく、また現在実施している検査項目以外の検査実績もほとんどない。

そこで本研究では現在検査対象ではない畜水産食品及び動物用医薬品について、LC-MS/MS を用いた分析法の開発を目的とした。

令和 7 年度は、鶏卵、牛乳、はちみつについてオキシテトラサイクリン等を含めた抗菌性物質 28 種類について分析法の検討を行い、適切な前処理法及び分析条件を決定した。

(4) 液体クロマトグラフ質量分析計を用いた水質試料のスクリーニング分析法の開発

水道法では、水質管理上留意すべき項目として「水質管理目標設定項目」(27 項目) が定められており、この中には農薬類 115 物質が含まれる。農薬類の分析には LC-MS や GC-MS を用いた分析が行われているが、全物質を対象とした分析は時間とコストの負担が大きい。そのため、網羅的かつ迅速な分析が可能なスクリーニング分析法の導入が有効と考えられるが、水質検査分野では十分に検討されていない。

そこで本研究では、液体クロマトグラフ-四重極飛行時間型質量分析計 (LC-QTOF/MS) を用い、農薬類を対象としたスクリーニング分析法の開発と水道水への適用可能性の検討を目的とした。

令和 7 年度は、スクリーニング分析

法に必要な農薬化合物データベースを内部標準物質 6 種及び農薬類 10 種について作成した。また、農薬標準物質の測定を実施することで、分析に用いる測定条件について検討を行い、適切な分析条件を決定した。

(5) 水質試験検査における分析法のミネラルウォーター類への適用に関する研究 ―液体クロマトグラフ質量分析法―

食品衛生法において、ミネラルウォーター類は水道水の代替として摂取されることから、水道法の水質基準を参考に基準値が設定されており、令和 7 年度の食品衛生法の改正において、ペルフルオロアルキル化合物 (PFAS) 等が新たに基準に追加された。

本研究では、液体クロマトグラフ質量分析計を用いる項目について、現行の水質検査の分析法をミネラルウォーター類の試験検査に適用すること、その際に一斉分析可能な未規制等の項目を追加検討することを目的とした。

令和 7 年度は、現行の水質検査で確立している 15 種類の PFAS にヘキサフルオロプロピレンオキシドダイマー酸 (HEPO-DA, PFOA の代替物質) を加えた計 16 物質の分析法についてミネラルウォーター類への適用を検討し、妥当性を満たすことを確認した。

またクロロ酢酸類については、硬度の異なる数種類のミネラルウォーターについて、基準値の 1/10 及び基準値濃度の添加回収試験を行ったが、±10%という真度の基準を満たさない結果もあり、試料の前処理や分析法の検討が必要と考えられた。

3.3.2 試験検査

(1) 食品検査

「兵庫県食品衛生監視指導計画」に基づき、県内に流通する食品等について、基準に適合しないものがないか試験検査を実施し、食品衛生行政の推進に寄与

した。

ア 穀類、野菜、果実等の残留農薬試験

健康福祉事務所が収去した 86 検体 (国産品 65 検体、輸入品 21 検体) について、1 検体あたり農薬 295 種及び代謝物 5 種の合計 300 種、検査項目数は計 25,800 項目の検査を行った。

国産品からは延べ 20 種、輸入品からは延べ 55 種の農薬あるいは代謝物が検出された (複数の検体で検出される農薬等がある)。なお、中国産の冷凍ピーマン 2 検体から一律基準を上回るエトキサゾールが検出されたが、その他の検体からは、残留基準及び一律基準を超過する農薬等の残留は認められなかった。

イ 国産食肉の残留農薬試験

食肉衛生検査センターが収去した国産食肉 12 検体 (牛肉、豚肉、鶏肉それぞれ 4 検体) について、農薬 194 種及びその代謝物 6 種の合計 200 種、検査項目数計 2,400 項目の検査を行った。その結果、鶏肉 1 検体から基準値未満で農薬 1 種類が検出されたが、その他の検体からは残留基準及び一律基準を超過する農薬等の残留は認められなかった。

ウ 輸入畜水産食品の残留医薬品試験

健康福祉事務所が収去した輸入食肉 15 検体 (牛肉 5 検体、豚肉 5 検体、鶏肉 5 検体) 及び輸入エビ 15 検体について、24 種 (牛肉は 26 種) 検査項目数計 730 項目の残留医薬品の検査を行った。その結果、いずれの検体からも医薬品は検出されなかった。

エ 国産食肉の残留医薬品試験

食肉衛生検査センターが収去した国産食肉 24 検体 (牛肉 5 検体、豚肉 9 検体、鶏肉 10 検体) について、抗菌性物質 20 種を検査対象とし、各検体に指定された計 480 項目について検査を行った。その結果、鶏肉 2 検体からオキシテトラサイクリンが基準値以下の濃度で検出された。その他の検体からは医薬品は検出されなかった。

オ 輸入かんきつ類の防かび剤試験

健康福祉事務所が収去した輸入かんきつ類 10 検体（オレンジ 5 検体，グレープフルーツ 2 検体，レモン 3 検体）について，防かび剤 4 種類，検査項目数計 40 項目の検査を行った．オルトフェニルフェノール及びオルトフェニルフェノールナトリウム並びにジフェニルは全ての検体から検出されなかった．イマザリル及びチアベンダゾールは全ての検体から検出されたが，基準値を超えるものはなかった．

カ 輸入食品における指定外添加物等の試験

健康福祉事務所が収去した輸入食品（缶詰，麺類，菓子類，ジャム，調味料等）40 検体について，着色料 38 種類（指定外 26 種類及び指定 12 種類），パラオキシ安息香酸メチル（指定外保存料），ソルビン酸（使用基準のある保存料），*tert*-ブチルヒドロキノン（未指定酸化防止剤）及びサイクラミン酸（未指定甘味料），検査項目数計 420 項目の検査を行った．その結果，全ての検体は日本の基準に適合していた．

キ 米の成分規格試験

健康福祉事務所が収去した県内産の新米 14 検体の玄米について，カドミウムの含有量を測定した．その結果，基準を超えて検出されるものはなかった．

ク 遺伝子組換え食品試験

健康福祉事務所が収去した遺伝子組換えの表示が無いダイズ穀粒 10 検体について，除草剤耐性 3 遺伝子，検査項目数計 30 項目の検査を行った．その結果，定量 PCR 対象検体のうち 1 検体は，3 遺伝子の含有率は 5%以下で，他の 8 検体は定量下限値(0.1%)未満であり，また，定性 PCR 対象の 1 検体は全て陰性であり，表示基準に適合していた．

ケ アレルゲン（特定原材料）を含む食

品の試験

健康福祉事務所が収去した菓子類及び加熱食肉製品 5 検体について，アレルゲン（卵）を検査した．その結果は，全て陰性であり，表示基準に適合していた．

コ 器具・容器包装の規格試験

健康福祉事務所が収去したガラス製品及び陶磁器製品各 10 検体，合計 20 検体の容器等について，鉛及びカドミウムの溶出試験（検査項目数計 40 項目）を行った．その結果，全て規格基準値の 1/10 未満であり，基準に適合していた．

(2) 貝毒検査

兵庫県海域における二枚貝等の食品としての安全性を確保するため，県林水産部水産漁港課の依頼により，兵庫県沿岸産貝類の麻痺性貝毒について，マガキ 57 検体，イワガキ 5 検体，アサリ 4 検体，合計 66 検体の検査を行った．試験結果は，令和 7 年 4 月に採取したマガキ 4 検体から最大 13 MU/g 及び令和 7 年 5 月に採取したアサリ 3 検体から最大 15 MU/g の麻痺性貝毒を検出した（規制値：4 MU/g）．その他の検体からは麻痺性貝毒は検出されなかった（検出限界値：2.0 MU/g）．

(3) 家庭用品のホルムアルデヒド検査

一般消費者の生活に供される家庭用品のうち，健康福祉事務所が試買した繊維製品（よだれ掛け，下着，外衣，帽子，寝衣等の乳幼児用衣類等）10 検体について，皮膚に障害を起こすホルムアルデヒドの検査を行った．その結果，すべて基準に適合していた．

(4) 水道水質検査

水道法に基づく水質基準項目検査のほか兵庫県水道水質管理計画に基づく監視地点の水道水及びその原水の水質監視を行い，県施策「水道水の安全性確保」の推進に寄与した．

ア 水道水質基準項目等の試験検査

県内市町水道事業者等からの依頼として、水質基準 51 項目と水質管理目標設定 27 項目（うち農薬類 115 種類）、その他要検討項目等計 72 検体、1,083 項目の検査を実施した。

それらの検査の結果、浄水については水道水の基準値及び目標値以下であった。

イ 健康福祉事務所からの依頼検査

健康福祉事務所からの依頼により、水質基準項目検査（51 項目）のうち、機器未整備のため検査対応できない 43 検体、816 項目の検査を実施した。その結果、すべての項目について基準値以下であった。

ウ 水道水質検査機関に対する外部精度管理

本県では、県内の水道水質検査実施機関及び関係行政機関が協議調整を行い、水道水質管理を円滑に実施し、より安全で良質の水道水を供給するために兵庫県水道水質管理連絡協議会を設置している。この協議会の中に精度管理委員会が置かれており、兵庫県水道水質検査精度管理実施要綱に基づき、当研究所が精度管理実施機関として県下の水道水質検査機関に対し、信頼性確保のため、毎年外部精度管理調査を実施している。

令和 7 年度は基準項目のうち、蒸発残留物、ジェオスミン及び 2-メチルイソボルネオール（以下、2-MIB と略す）の 3 項目を調査項目として未知試料を配布した。蒸発残留物は 21 機関、ジェオスミン及び 2-MIB は 17 機関の参加を得た。

各機関から提出された全データについて統計解析の作業を行い、全機関と各機関の評価を行った。その結果、蒸発残留物、ジェオスミンについては全機関が良好であったが、2-MIB のみ 1 機関が評価基準を満たさなかった。標準液等を採取する器具の不適切な使用方法が原因であることが判明

し、使用方法を改善することで検査結果も改善された。これらの実施結果は報告書として取りまとめ、協議会に報告する。

(5) 空中飛散花粉の観測と情報の提供

県下 4 か所の健康福祉事務所（宝塚、龍野、豊岡、洲本）及び当研究所の 5 観測点で、春季のスギ・ヒノキ花粉飛散期間及び秋季のキク科花粉飛散期間を中心に、大気中の飛散花粉の通年観測を実施した。調査対象は、花粉症の有病率が高いスギ、ヒノキ、カバノキ科、ブタクサ及びヨモギの花粉とした。

春季については、各観測地点の毎日の花粉飛散状況を当研究所で取りまとめ、県疾病対策課、健康福祉事務所、一般財団法人日本気象協会及び株式会社ウェザーニューズに情報提供した。秋季については、各観測点で週単位に捕集した花粉試料を当研究所で判別し、測定値をまとめ、県疾病対策課、健康福祉事務所に毎週情報配信した。また、当研究所ホームページでも一般公開し、花粉飛散状況について広く情報発信した。

加古川市内における令和 7 年春季のスギ・ヒノキ花粉では、飛散開始日が 2 月 25 日、飛散終了日が 5 月 13 日で、この期間中に当研究所で観測した飛散花粉数は、スギ 3348.8（個/cm²）、ヒノキ 3080.5（個/cm²）であった。また、秋季ではブタクサが 8 月下旬から 10 月上旬まで、ヨモギが 8 月上旬から令和 8 年 1 月中旬まで観測された。これらの期間中に当研究所で観測した飛散花粉数は、ブタクサ 5.5（個/cm²）、ヨモギ 89.1（個/cm²）であった。

(6) 医薬品・医療機器等一斉監視指導における試験

医薬品等一斉監視指導の後発医薬品品質確保対策として、市場に流通している医薬品の溶出試験を実施した。令和 7 年度は睡眠誘導剤 13 検体の溶出規格試験を行った。

(7) 危険ドラッグ等試験

県内で一般販売される危険ドラッグの疑いのある製品について、指定薬物（合成カンナビノイド等）の検査を迅速に行う体制を継続しているが、令和 7 年度は当該検査事例がなかった。

(8) 温泉分析

ア 温泉の成分分析

温泉法の規定により、温泉を公共の浴用又は飲用に供する者は、利用許可申請時及び 10 年ごとに温泉成分分析を受け、その結果に基づき施設内の見やすい場所に温泉の成分や入浴上の注意等を掲示することになっている。

当研究所は温泉法に定められた登録分析機関であり、令和 7 年度は県内事業者から 9 件の依頼を受け、環境省が定めた鉱泉分析法指針に基づき成分分析を実施した。

イ 可燃性天然ガス（メタン）濃度の測定

温泉法では、可燃性天然ガスによる災害防止のため、登録分析機関等で温泉水の可燃性天然ガス（メタン）濃度を測定し、濃度に応じて措置を講じる必要がある。

令和 7 年度は、県内事業者から 9 件の依頼があり、環境省告示法に基づき試験を行った。

(9) 苦情や突発的な事件等に係る検査

健康福祉事務所からの依頼により、健康被害の原因食品等に係る検査を行った。

令和 7 年 10 月に県内の保育園において、昼食喫食後に発生したアレルギー様症状による食中毒疑い事例の食品残品について、微量のヒスタミン及びチラミンを検出した。

また、令和 8 年 3 月に県内の家庭で採取した植物根による食中毒疑い事例の食品残品について、アトロピン及びスコポラミンの分析を行ったが、定量限界未満であった。

(10) その他外部からの委託・依頼等を受けた試験及び調査研究等

ア ジェネリック医薬品・バイオシミラー品質情報検討会に係る医療用医薬品試験

厚生労働省から委託を受け、当研究所を含む 10 都府県と国立医薬品食品衛生研究所及び国立感染症研究所で構成されるジェネリック医薬品・バイオシミラー品質情報検討会製剤試験 WG において後発医薬品の品質を確認するため、溶出試験を行った。

令和 7 年度は、バソプレシン V2 受容体拮抗薬 7 製剤について、4 種の試験液（pH 1.2、pH 4.0、pH 6.8 及び水）を用いて先発製剤との溶出挙動の類似性を調査して報告した。

イ 環境放射能水準調査

原子力規制庁から委託を受け、県内で採取した環境試料（雨水、降下物、大気浮遊塵、土壌、上水等）90 検体及び食品（魚類、牛乳、米、野菜等）5 検体に含まれる人工放射性核種の測定を実施した。結果は、令和 7 年度の測定において異常は認められなかった。

ウ 保健所設置市からの食品等の依頼検査

（ア）菓子等の食品 4 検体について、保存料（ソルビン酸等）の検査を行った。

（イ）菓子等の食品 2 検体について、甘味料（サイクラミン酸）の検査を行った。

（ウ）菓子及び麺類 4 検体について、酸化防止剤（*tert*-ブチルヒドロキノン）の検査を行った。

（エ）陶磁器等 4 検体について、鉛及びカドミウムの溶出試験を行った。

（オ）食肉 1 検体について、残留医薬品の検査を行った。

エ 医薬品・医薬部外品の製造販売承認審査における専門的評価

県薬務課から依頼を受け、県知事に製

造販売承認申請された医薬部外品 1 品目について、規格及び試験方法に関する資料の妥当性に係る専門的評価を実施した。

オ 兵庫県立大学環境人間学部との共同研究

病院食の調理によるミネラル量の変化についての検討として、食品中のカリウム、ナトリウム、カルシウム、マグネシウム、鉄、リン及び亜鉛の定量を誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析装置を用いて実施した。

(11) 外部精度管理

一般財団法人食品薬品安全センターが実施する残留農薬検査Ⅱ（にんじんペースト中の農薬の定性・定量）、特定原材料検査（ベビーフード中のアレルゲンの定量）及び食品添加物検査Ⅰ（シロップ中の酸性タール色素の定性）の食品衛生外部精度管理調査に参加した結果、良好な結果が得られた。

さらに、国立医薬品食品衛生研究所が実施する遺伝子組換え食品検査（安全性未審査の遺伝子組換えコムギ）の外部精度管理調査及び厚生労働省が実施する都道府県衛生検査所等における外部精度管理を目的とした技能試験（エナラプリルマレイン酸塩錠の定量法及び純度試験）に参加した。

4 試験検査の概要

4.1 行政検査件数（感染症部）

試 験 検 査 項 目		感染症部検査件数	
		件数(患者数※)	検体数
細菌等の検査	結核菌の遺伝子型別等の検査	112	112
	侵襲性肺炎球菌感染症感染源調査	15	15
	腸管出血性大腸菌感染症の検査	54	54
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症の検査	9	10
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の検査	18	18
	輸入ナチュラルチーズのリステリア菌検査	15	15
	クドアセプトンブクタータ等寄生虫の検査	20	26
	その他	33	53
	小 計	276	303
ウイルス及びリケッチアの検査	インフルエンザウイルスの検査	37	37
	新型インフルエンザウイルス感染源調査（豚鼻腔）	100	100
	日本脳炎感染源調査（豚血清）	80	80
	日本紅斑熱リケッチアの検査	36	96
	つつが虫病リケッチアの検査	30	80
	新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）のゲノム解析	119	119
	重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスの検査	30	38
	ウイルスによる集団嘔吐下痢症及び食中毒（疑）事例の感染源，感染経路調査	121	121
	ロタウイルス感染症感染源調査（厚生労働省感染症流行予測調査）	6	6
	A型肝炎ウイルスの検査	1	2
	E型肝炎ウイルスの検査	1	2
	麻疹ウイルスの検査	56	156
	風疹ウイルスの検査	42	114
	蚊媒介感染症（デング熱，チクングニア熱，ジカウイルス）の検査	6	13
	感染症発生動向調査における病原体検査（ARI定点）	1,074	1,074
	感染症発生動向調査における病原体検査（小児科定点）	55	63
	新型コロナウイルス下水サーベイランス（厚生労働省感染症流行予測調査）	100	100
	その他	4	4
	小 計	1,898	2,205
合 計		2,174	2,508

※臨床検体の場合

4.2 行政検査件数（健康科学部）

試 験 検 査 項 目		健康科学部検査件数	
		検体数	検査項目数
水 質 検 査※		45	842
食 品 等 の 理 化 学 的 検 査	穀物，野菜等の残留農薬試験	86	25,800
	器具・容器包装の規格試験	20	40
	米 の 成 分 規 格 試 験	14	14
	輸 入 食 品 の 添 加 物 試 験	40	420
	輸入かんきつ類の防かび剤試験	10	40
	家 庭 用 品 の 試 買 試 験	10	10
	遺 伝 子 組 換 え 食 品 試 験	10	30
	アレルギーを含む食品試験	5	5
	国産食肉の残留農薬試験	12	2,400
	国産食肉の残留医薬品試験	24	480
	輸入食肉の残留医薬品試験	15	370
	輸入魚介類の残留医薬品試験	15	360
	貝 毒 検 査	66	66
	そ の 他	7	26
	小 計	334	30,061
医 薬 品 等 の 検 査	医 薬 品 検 査	20	293
	危 険 ド ラ ッ グ 検 査	0	0
	小 計	20	293
の そ の 他 の 検 査	花 粉 飛 散 状 況 調 査	411	11,097
	環 境 放 射 能 水 準 調 査	95	205
	小 計	506	11,302
合 計		905	42,498

※一般依頼検査の検体のうち，県水道水質管理計画に基づき，県が検査実施主体となっている2検体26項目を含む。

4.3 一般依頼検査項目別手数料

名 称				単 価 (円)		検査件数 (件)			金 額 (円)	
						感染 症部	健康科 学部	計		
水 質 検 査 料	理 化 学 的 検 査	簡 易 な 方 法 に よ る 検 査		1 成分	520	0	8	8	4,160	
		一般的な方法による検査		1 成分	3,200	0	121	121	387,200	
		精 密 な 方 法 に よ る 検 査	AAS 又は ICP による検査		1 試料	5,800	0	10	10	58,000
					1 成分	4,000	0	119	119	476,000
			PT－GC／MS， PT－GC		1 試料	8,400	0	35	35	294,000
			HS－GC／MS による検査		1 成分	3,100	0	115	115	356,500
			固相抽出－GC／MS 又は 固相抽出－GC による検査		1 試料	10,500	0	29	29	304,500
					1 成分	6,000	0	248	248	1,488,000
			固相抽出－HPLC による検査		1 試料	10,500	0	87	87	913,500
					1 成分	7,100	0	137	137	972,700
	溶媒抽出－GC／MS 又は 溶媒抽出－GC による検査		1 試料	10,500	0	38	38	399,000		
			1 成分	7,000	0	20	20	140,000		
細 菌 学 的 検 査		1 種目	3,700	5	0	5	18,500			
一 検 査	水道法施行規則規定検査		1 試料	5,200	0	10	10	52,000		
温 泉 分 析 試 験 料	中 分 析 試 験		1 件	129,000	0	9	9	1,161,000		
	可燃性天然ガス定量試験		1 件	19,000	0	9	9	171,000		
理 化 学 的 検 査 料	一般理化学的検査		食 品 検 査	定量試験	1 成分	4,700	0	20	20	94,000
	特殊理化学的検査	特殊有機化学物質定量試験		1 成分	40,000	0	2	2	80,000	
				1 成分	20,000	0	20	20	400,000	
		残 留 農 薬 及 び 動 物 医 薬 品 試 験		(20 成分まで) 1 成分	2,000	0	4	4	8,000	
生 物 学 的 検 査 料	微生物の 検査	定 量 試 験		1 種目	5,100	10	0	10	51,000	
		遺 伝 子 増 幅 検 査		1 種目	25,000	71	0	71	1,775,000	
		特 定 遺 伝 子 検 査		1 遺伝子	11,000	134	0	134	1,474,000	
	ウイルス の検査	遺 伝 子 増 幅 検 査		1 種目	32,000	55	0	55	1,760,000	
		特 定 遺 伝 子 検 査		1 遺伝子	11,000	76	0	76	836,000	
		遺 伝 子 全 解 析 検 査		1 件	41,000	1	0	1	41,000	
合 計					352	1,041	1,393	13,715,060		

5 調査研究課題一覧表

研 究 部	調 査 研 究 課 題	実施概要
感染症部	(1) ダニ媒介感染症のゲノム解析体制の整備に関する研究	p. 13 参照
	(2) ノロウイルスをはじめとする胃腸炎ウイルスにおける全ゲノム解析の確立に関する研究	p. 14 //
健康科学部	(1) 医薬品試験における試験条件変更の影響について	p. 21 参照
	(2) 水道水及び原水中の逐次改正対象項目及び要検討項目等の分析法に関する研究 (2) -GC/MSやGC/MS/MSによる分析技術での対応-	p. 22 //
	(3) LC-MS/MSを用いた動物用医薬品分析法の確立	p. 22 //
	(4) 液体クロマトグラフ質量分析計を用いた水質試料のスクリーニング分析法の開発	p. 22 //
	(5) 水質試験検査における分析法のミネラルウォーター類への適用に関する研究 -液体クロマトグラフ質量分析法-	p. 23 //

6 試験検査項目等一覧表

研 究 部	試 験 検 査 項 目	実施概要
感 染 症 部	(1) 細菌等の検査	
	ア 侵襲性肺炎球菌感染症感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)	p. 14 参照
	イ 結核菌の検査	p. 14 //
	ウ 腸管出血性大腸菌感染症に係る依頼検査	p. 14 //
	エ 食中毒(疑)発生時の細菌検査	p. 14 //
	オ クドア(寄生虫)が原因と疑われる食中毒(疑)の検査	p. 14 //
	カ 輸入ナチュラルチーズのリステリア菌の検査	p. 14 //
	キ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症に係る依頼検査	p. 14 //
	ク 侵襲性肺炎球菌感染症に係る依頼検査	p. 15 //
	ケ CRE 感染症に係る依頼検査	p. 15 //
	コ その他の細菌等の依頼検査	p. 15 //
	(2) ウイルス及びリケッチアの検査	
	ア インフルエンザ集団感染事例等におけるインフルエンザウイルスの検査	p. 15 //
	イ 感染症発生動向調査におけるインフルエンザウイルスの検査	p. 15 //
	ウ 保健所の依頼に基づくインフルエンザウイルス分離	p. 15 //
	エ 令和7年度新型インフルエンザウイルスの出現監視を目的とした感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)	p. 15 //
	オ 令和7年度日本脳炎感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)	p. 16 //
	カ 令和7年度ロタウイルス感染症感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)	p. 16 //
	キ 蚊媒介感染症の検査	p. 16 //
	ク 急性呼吸器感染症(ARI)病原体サーベイランス	p. 16 //
	ケ 感染症発生動向調査における病原体検査(小児科定点)	p. 16 //
	コ 日本紅斑熱及びつつが虫病リケッチアの検査	p. 17 //
	サ 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスの検査	p. 17 //
	シ A型及びE型肝炎ウイルスの検査	p. 17 //
	ス HIVの確認検査	p. 17 //
	セ 市販生食用かきのノロウイルス検査	p. 17 //
	ソ ウイルスによる集団胃腸炎事例の感染経路, 感染源調査	p. 17 //
	タ 麻しんウイルスの検査	p. 17 //
	チ 風しんウイルスの検査	p. 17 //
	ツ 令和7年度新型コロナウイルス下水サーベイランス(厚生労働省感染症流行予測調査)	p. 18 //
	(3) 外部精度管理	p. 18 //
	(4) 受託及び共同研究	
	感染症媒介蚊発生動向調査	p. 18 //

研 究 部	試 験 検 査 項 目	実施概要
健康科学部	(1) 食品検査	
	ア 穀類, 野菜, 果実等の残留農薬試験	p. 23 参照
	イ 国産食肉の残留農薬試験	p. 23 //
	ウ 輸入畜水産食品の残留医薬品試験	p. 23 //
	エ 国産食肉の残留医薬品試験	p. 23 //
	オ 輸入かんきつ類の防かび剤試験	p. 24 //
	カ 輸入食品における指定外添加物等の試験	p. 24 //
	キ 米の成分規格試験	p. 24 //
	ク 遺伝子組換え食品試験	p. 24 //
	ケ アレルゲン (特定原材料) を含む食品の試験	p. 24 //
	コ 器具・容器包装の規格試験	p. 24 //
	(2) 貝毒検査	p. 24 //
	(3) 家庭用品 (繊維製品) のホルムアルデヒド試験	p. 24 //
	(4) 水道水質検査	
	ア 水道水質基準項目等の試験検査	p. 25 //
	イ 健康福祉事務所からの依頼検査	p. 25 //
	ウ 水道水質検査機関に対する外部精度管理	p. 25 //
	(5) 空中飛散花粉の観測と情報の提供	p. 25 //
	(6) 医薬品・医療機器等一斉監視指導における試験	p. 25 //
	(7) 危険ドラッグ等試験	p. 26 //
	(8) 温泉分析	
	ア 温泉の成分分析	p. 26 //
	イ 可燃性天然ガス (メタン) 濃度の測定	p. 26 //
	(9) 苦情や突発的な事件等に係る検査	p. 26 //
	(10) その他外部からの委託・依頼等を受けた試験及び調査研究等	
	ア ジェネリック医薬品・バイオシミラー品質情報検討会に係る医療用医薬品試験	p. 26 //
	イ 環境放射能水準調査	p. 26 //
	ウ 保健所設置市からの食品等の依頼検査	p. 26 //
	エ 医薬品・医薬部外品の製造販売承認審査における専門的評価	p. 26 //
	オ 兵庫県立大学環境人間学部との共同研究	p. 27 //
	(11) 外部精度管理	p. 27 //

7 普及啓発活動一覧表

7.1 研究・調査発表会

令和元年度から、兵庫県公衆衛生協会中央研究会を当研究所の研究・調査発表会と位置づけており、発表している。

- (1) 発表日：令和 7 年 11 月 15 日
- (2) 場 所：兵庫県医師会館
- (3) 演 題：「兵庫県における家庭用品（衣類）のホルムアルデヒド検査について」
健康科学部 森口 奈名子

7.2 体験型科学教室「夏だ！サイエンス DE チャレンジ」

令和 7 年度は、県民に開かれた研究所を目指して、小・中学生の夏休みの自由研究に役立ててもらうため、科学実験を行う体験型科学教室を開催した。

- (1) 開催日：令和 7 年 7 月 28 日
- (2) テーマ：①微生物を見てみよう！
 - ・手の汚れを見てみよう
 - ・顕微鏡で見てみよう②身のまわりの水について調べてみよう！
 - ・水の硬度をを調べよう

7.3 夏休み自宅科学教室

当研究所をよりもっと身近に感じていただき、小・中学生の夏休みの自由研究に役立ててもらうために、ホームページに実験テキストを掲載した。

- テキスト：①小麦粉からガムを作ろう
②納豆菌を阻止できるかな？
③微生物を培養しよう
④夏の大敵！蚊について調べてみよう
⑤結晶を作ってみよう
⑥感染症について調べてみよう
⑦ビタミン C を測ろう

7.4 業務紹介パネル展示

当研究所の業務を地域の方に知ってもらい身近に感じていただくために研究所紹介、各部の業務紹介、花粉飛散調査、新型コロナウイルス検査についてパネル展示を行った。

- (1) 開催日：令和 7 年 11 月 16 日
- (2) 場 所：はりま姫路総合医療センター

7.5 県職員の研修指導

研修・講習名	実施期間 年月日	実施担当部	実 施 課 題	実施対象者 所属機関等	実施場所	備 考
令和7年度 健康福祉事 務所検査業 務担当者新 任研修（後 期）	R7.12.15 ～19	危機管理部 感染症部 健康科学部	当研究所の概要, GLP 概論, 疫学概論, 花 粉調査実習, 細菌検 査実習, ウイルス検 査実習, 水道水検査 概要, 食品検査概要	宝塚健康 福祉事務 所1名 加古川健 康福祉事 務所1名	健康科学 研究所	疾病対 策課主 催

7.6 県職員以外の研修指導

研修・講習名	実施期間 年月日	実施担当部	実 施 課 題	実施対象者 所属機関等	実施場所	備 考
理化学検査 研修	R7.7.24 ～25	健康科学部	HPLC を用いた食品 添加物の分析	西宮市保 健所職員3 名	西宮市 保健所	西宮市 保健所 依頼
獣医学生イ ンターンシ ップ	R7.8.20	危機管理部 感染症部 健康科学部	当研究所の概要, 細 菌感染症概要及び実 習, ウイルス感染症 概要及び実習, 健康 科学部概要	全国大学 獣医学部 生3名	健康科学 研究所	生活衛 生課依 頼
検査技術向 上のための 研修	R7.11.19	感染症部	麻疹・風疹ウイルス 検査	あかし保 健所職員 1名	健康科学 研究所	あかし 保健所 依頼
地域保健実 習	R7.11.19	危機管理部 感染症部 健康科学部	当研究所の概要、施 設見学、意見交換	自治医大 生 1名	健康科学 研究所	疾病対 策課依 頼

7.7 研修会での講演等

研修会等の名称	年 月 日	担 当 者	講演等の内容	主 催 者	場 所
令和7年度健康福祉事務所検査室長会議	R7.5.16	今井 史	GLP 業務について	疾病対策課	兵庫県庁
令和7年度兵庫県水道水質管理連絡協議会	R7.9.26	矢野 美穂	令和6年度外部精度管理実施結果（講評）	生活衛生課	兵庫県中央労働センター
令和7年度（第13回）兵庫県立大学理学部・大学院理学研究科・兵庫県立大学先端医療工学研究所・兵庫県立健康科学研究所合同研究発表会	R7.11.4	吉岡 直樹	ヒスタミン類の不揮発性アミン類の各種シリンジフィルターへの吸着及びガラスバイアルへの吸着対策について	県立大学理学部・大学院理学研究科・先端医療工学研究所・県立健康科学研究所	県立健康科学研究所
令和7年度（第10回）兵庫県立大学環境人間学部・研究科・兵庫県立健康科学研究所合同研究発表会	R7.11.11	齋藤 悦子	クドア属粘液胞子虫について	県立大学環境人間学部・県立健康科学研究所	オンライン開催
微生物学講義	R7.12.18	押部 智宏	インフルエンザ	神戸大学医学部	神戸大学医学部
ペストコントロール業務従事者研修会	R8.2.2	押部 智宏	動物由来感染症	兵庫県ペストコントロール協会	神戸市産業振興センター
令和7年度西部ブロック健康福祉事務所等検査業務担当者研修会	R8.3.6	島本 章義	食中毒（疑い）事例に係るウイルス検査及びHIV 確認試験の概要について	加古川健康福祉事務所	加古川健康福祉事務所
令和7年度兵庫県水道水質検査精度管理委員会	R8.3.13	矢野 美穂	令和7年度外部精度管理実施結果（講評）	生活衛生課	兵庫県庁

7.8 施設見学等

年月日	実施担当部	実施内容等	実施対象者 所属機関等	備 考
R7. 6. 2	感染症部 健康科学部	施設等の視察	知事、県立健康科学研 学研究所参与 1 名	疾病対策課依頼
R7. 7. 9	感染症部 健康科学部	施設等の視察	財政課 3 名	保健医療部総務課 依頼
R7. 8. 5	感染症部	設備等の見学	姫路市健康福祉局保健 医療部職員 5 名	姫路市依頼
R7. 8. 20	感染症部 健康科学部	各部における 業務の紹介, 施設等の見学	獣医学生インターン シップ全国大学獣医 学部生 4 名	生活衛生課依頼
R7. 9. 25	感染症部	設備等の見学	姫路市保健所食肉衛生 検査センター職員 3 名	姫路市保健所依頼
R7. 9. 29	健康科学部	施設等の見学	食肉衛生検査センター 職員 1 名	生活衛生課依頼
R7. 10. 14	感染症部 健康科学部	各部における 業務の紹介, 施設等の見学	薬局職員 1 名、薬学部 学生 1 名	薬局依頼
R7. 11. 13	感染症部	設備等の見学	あかし保健所職員 1 名	あかし保健所依頼
R7. 11. 19	感染症部 健康科学部	各部における 業務の紹介, 施設等の見学	自治医大生 1 名、疾病 対策課 1 名	疾病対策課依頼
R7. 12. 17	感染症部 健康科学部	各部における 業務の紹介, 施設等の見学	宝塚健康福祉事務所職 員 1 名 加古川健康福祉事務所 職員 1 名	疾病対策課依頼

7.9 委員会の委員等の就任

委 員 会 等 の 名 称	委 嘱 機 関 名	職 員 名
加古川中央市民病院臨床研修管理委員会委員	加古川中央市民病院	今井 雅尚
神戸港健康危機管理対策委員会委員	神戸検疫所	今井 雅尚
ジェネリック医薬品・バイオシミラー品質情報検討会 WG 委員	厚生労働省	安井 麻姫
全国衛生化学技術協議会幹事	全国衛生化学技術協議会	藤田 裕代
地研全国協議会アルボウイルスレファレンス委員	地研全国協議会	庄田 徹
地研全国協議会エンテロウイルスレファレンス委員	地研全国協議会	荻 美貴
地研全国協議会近畿支部ウイルス部会役員	地研全国協議会近畿支部ウイルス部会	島本 章義
地研全国協議会近畿支部疫学情報部会役員	地研全国協議会近畿支部疫学情報部会	庄田 徹
地研全国協議会近畿支部細菌部会役員	地研全国協議会近畿支部細菌部会	辻田 久美子
地研全国協議会近畿支部自然毒部会長	地研全国協議会近畿支部自然毒部会	今井 雅尚
地研全国協議会近畿支部自然毒部会世話人	地研全国協議会近畿支部自然毒部会	吉岡 直樹
地研全国協議会近畿支部理化学部会役員	地研全国協議会近畿支部理化学部会	吉岡 直樹
地研全国協議会リケッチアレファレンス委員	地研全国協議会	池端 真帆
日本食品衛生協会検討小委員会委員	日本食品衛生協会	吉岡 直樹
ひょうご科学技術協会総合企画委員	公益財団法人 ひょうご科学技術協会	今井 雅尚
ひょうご社会医学系専門医研修プログラム管理委員	兵庫県（保健医療部総務課）	今井 雅尚
兵庫県介護保険審査会委員	兵庫県（福祉部高齢政策課）	村上 修子
兵庫県環境審議会温泉部会幹事	兵庫県（環境部環境政策課）	今井 雅尚
兵庫県感染症対策連携協議会委員	兵庫県（保健医療部疾病対策課）	今井 雅尚

兵庫県感染症対策連携協議会予防計画部会委員	兵庫県（保健医療部疾病対策課）	今井 雅尚
兵庫県公衆衛生協会常任理事	兵庫県公衆衛生協会	今井 雅尚
兵庫県水道水質管理連絡協議会精度管理委員会委員長	兵庫県（土木部上下水道課）	藤田 裕代
兵庫県精度管理専門委員	兵庫県（保健医療部医務課）	押部 智宏
兵庫県保健所検査技師会顧問	兵庫県保健所検査技師会	今井 雅尚

7.10 非常勤講師・客員研究員等の就任

名 称	科目・研究テーマ等	委嘱機関	期 間	職員名
医学研究科客員准教授	先端医学トピックス 微生物学・免疫学	神戸大学	R7.4～ R8.3	押部 智宏
医学研究科医学研究員	食品中に混入した毒劇物の分析法に関する法医中毒学的研究	神戸大学 大学院	R7.4～ R8.3	吉岡 直樹

8 学会発表一覧表

演 題 名	発 表 者 名	学 会 名
感染症部		
兵庫県の2012～2023年のサーベイランスにおけるコクサッキーウイルス A2 組換え株の検出	荻 美貴（押部 智宏，大岡 徹彦，藤本 嗣人）	第 99 回日本感染症学会総会・学術講演会 第 73 回日本化学療法学会総会 合同学会，2025. 5，横浜市
兵庫県における新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 下水サーベイランスによる感染動向の解析について	荻 美貴（今井 雅尚）	第 84 回 日本公衆衛生学会総会，2025. 10，静岡市
兵庫県のダニ媒介感染症発生状況と検査対応	荻 美貴（池端 真帆，庄田 徹，荻田 堅一，鷲 ゆい，押部 智宏）	第 80 回日本衛生動物学会西日本支部大会 第 20 回日本衛生動物学会西日本支部例会，2025. 11，神戸市
健康科学部		
LC-MS/MS によるわが国の主な毒きのこの多成分同時分析法の開発	友澤 潤子（吉岡 直樹ほか）	第 121 回日本食品衛生学会学術講演会，2025. 10，東京都
はちみつ中に含まれる小麦アレルゲン分析法の検討	安井 麻姫（吉岡 直樹，藤田 裕代）	第 62 回全国衛生化学技術協議会年会，2025. 11，群馬県
市販冷凍野菜における残留農薬検出事例	赤松 成基（後藤 操，森口 奈名子，安井 麻姫，吉岡 直樹，藤田 裕代）	令和 7 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部理化学部会研修会，2025. 11，京都府

9 論文等発表抄録

9.1 他 誌

[欧文発表]

A foodborne outbreak caused by atypical enteropathogenic *Escherichia coli* O45:H15 in the Kinki region of Japan.

Appl Environ Microbiol. 2025 Jun

18;91(6):e0012325. doi:

10.1128/aem.00123-25.

兵庫県立健康科学研究所

齋藤 悦子

荻田 堅一

押部 智宏

大岡 徹彦

地方独立行政法人

大阪健康安全基盤研究所

原田 哲也

若林 友騎

山口 貴弘

河合 高生

加東健康福祉事務所

八木 貴子

2022年6月兵庫県内の飲食店を原因とする食中毒事例が発生し、喫食者44名のうち38名、従業員2名及び喫食残品（ほうれん草の白和え）から腸管病原性大腸菌（EPEC）血清型O45:H15を分離した。分離株は、束形成線毛をコードする**bfpA**陰性であり、非定型EPECと同定された。

パルスフィールドゲル電気泳動と全ゲノム配列解析により、分離株は同一クローンであることが示唆された。これらの菌株は細胞侵入に関与する遺伝子として報告されている**espT**を保有していた。

我々の知る限り、**espT**を保有する非定型EPEC O45:H15による食中毒の報告は本邦初であり、学術的にも重要な知見となる。

[和文発表]

兵庫県におけるエコーウイルス 11 型の検出・分離状況，2013～2024 年

IASR Vol.46 p110-112: 2025 年 5 月号

兵庫県立健康科学研究所

感染症部

荻 美貴

押部 智宏

大岡 徹彦

加古川中央市民病院

小児科

西山 敦史

森沢 猛

公立豊岡病院組合立豊岡病院

小児科

港 敏則

兵庫県立尼崎総合医療センター

小児感染症内科

伊藤 雄介

岡藤小児科医院

岡藤 隆夫

国立健康危機管理研究機構

国立感染症研究所

真菌部

藤本 嗣人

エコーウイルス 11 型(E11)は、新生児において脳炎，心筋炎，肝炎の原因となり重症化することがあり，2023 年からその流行が世界的に懸念されている。

2013～2024 年の兵庫県の感染症発生動向調査において，小児科定点で検体を採取された 3998 名中 505 名からエンテロウイルスが検出され，そのうち E11 陽性は 15 名であった。0 歳児が最も多く，無菌性髄膜炎，上気道炎等と診断されており，5 例は肝機能障害が認められた。

E11 分離株 9 件のうち，2024 年の分離株は lineage1 に分類され，他の分離株は異なる lineage であった。2022 年に新規に出現した変異株 lineage1 の重症例の発生が世界各国で報告されているが，兵庫県内では 2013，2014 年及び 2018 年に lineage1 以外の E11 が重篤な新生児の感染症を散発的に引き起こしていたことが示唆された。系統の遺伝的変化が病原体に影響を及ぼしているかどうかについては，さらなる調査が必要と考えられる。

9.2 兵庫県立健康科学研究所研究報告
第7号 令和7年度(2025年度)

【ノート】

兵庫県におけるカルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)感染症患者由来菌株の解析(2017～2023年)

齋藤 悦子, 池端 真帆, 荻田 堅一, 坂野 桂, 押部 智宏, 大岡 徹彦

兵庫県における侵襲性肺炎球菌感染症の発生動向, 並びに血清型及び薬剤耐性遺伝子の解析(2019～2023年)

池端 真帆, 齋藤 悦子, 坂野 桂, 押部 智宏, 大岡 徹彦

安定同位体等を用いた内部標準法による動物用医薬品分析の検討

安井 麻姫, 赤松 成基, 吉岡 直樹, 藤田 裕代

【資料】

記憶喪失性貝毒ドウモイ酸分析法のマガキ及びムラサキイガイにおける妥当性評価

吉岡 直樹, 藤田 裕代

兵庫県における水道水質検査の外部精度管理実施結果(2023年度:亜鉛及びその化合物, 銅及びその化合物)

矢野 美穂, 松村 益代, 藤田 裕代

GC/MSによる水質検査での農薬類分析の条件検討で認められたマトリックス様効果

北本 寛明, 藤田 裕代

10 検査結果等

10.1.1 全数把握対象疾病の疾病別年間累積患者数（令和7年）（令和8年3月31日現在の把握数）

疾 病 名		計	疾 病 名		計
一 類 感 染 症	エボラ出血熱	0	四 類 感 染 症 （ 2 ）	日本紅斑熱	30
	クリミア・コンゴ出血熱	0		日本脳炎	0
	痘そう	0		ハンタウイルス肺症候群	0
	南米出血熱	0		Bウイルス病	0
	ペスト	0		鼻疽	0
	マールブルグ病	0		ブルセラ症	0
	ラッサ熱	0		ベネズエラウマ脳炎	0
二 類 感 染 症	急性灰白髄炎	0		ヘンドラウイルス感染症	0
	結核	806		発しんチフス	0
	ジフテリア	0		ボツリヌス症	0
	重症急性呼吸器症候群 ^{*A}	0		マラリア	1
	中東呼吸器症候群 ^{*B}	0		野兔病	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0		ライム病	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0		リッサウイルス感染症	0
三 類 感 染 症	コレラ	0		リフトバレー熱	0
	細菌性赤痢	0		類鼻疽	0
	腸管出血性大腸菌感染症	160		レジオネラ症	112
	腸チフス	1		レプトスピラ症	2
	パラチフス	0		ロッキー山紅斑熱	0
四 類 感 染 症 （ 1 ）	E型肝炎	4	五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	24
	ウエストナイル熱 ^{*C}	0		ウイルス性肝炎 ^{*F}	10
	A型肝炎	7		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	65
	エキノコックス症	0		急性弛緩性麻痺 ^{*G}	1
	エムボックス	1		急性脳炎 ^{*H}	11
	黄熱	0		クリプトスポリジウム症	0
	オウム病	2		クロイツフェルト・ヤコブ病	6
	オムスク出血熱	0		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	53
	回帰熱	0		後天性免疫不全症候群	12
	キャサヌル森林病	0		ジアルジア症	0
	Q熱	0		侵襲性インフルエンザ菌感染症	35
	狂犬病	0		侵襲性髄膜炎菌感染症	9
	コクシジオイデス症	0		侵襲性肺炎球菌感染症	192
	ジカウイルス感染症	0		水痘(入院例)	24
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*D}	10		先天性風しん症候群	0
	腎症候性出血熱	0		梅毒	364
	西部ウマ脳炎	0		播種性クリプトコックス症	4
	ダニ媒介脳炎	0		破傷風	3
	炭疽	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0
	チクングニア熱	0		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0
	つつが虫病	2		百日咳	3481
	デング熱	9		風しん	0
	東部ウマ脳炎	0		麻しん	13
	鳥インフルエンザ ^{*E}	0		薬剤耐性アシネトバクター感染症	0
	ニパウイルス感染症	0			

^{*A}病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。^{*B}病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。^{*C}ウエストナイル脳炎を含む。^{*D}病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。^{*E}H5N1及びH7N9を除く。^{*F}E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*G}急性灰白髄炎を除く。^{*H}ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

10.1.2 全数把握対象疾病の疾病別週別患者数（届出のあった疾病）（令和7年）

疾 病 名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
二 類 感 染 症	結核	1	20	12	18	17	19	11	15	9	17	18	11	17	6	16	19	13	11	15	19	20	19	9	14	15	16	12	
三 類 感 染 症	腸管出血性大腸菌感染症	0	1	1	3	0	0	0	0	1	1	1	2	1	0	1	1	2	0	2	1	2	0	0	2	2	0	3	
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
四 類 感 染 症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*A}	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	1	
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	デング熱	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	1	0	0	
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	レジオネラ症	1	0	4	0	0	1	0	2	1	2	2	1	3	2	3	2	1	1	2	4	2	3	3	4	4	8	2	
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0
		ウイルス性肝炎 ^{*B}	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1	1	3	1	3	1	2	0	1	2	2	3	3	1	1	2	0	1	0	2	0	0	1	1	1	2	1
		急性弛緩性麻痺 ^{*C}	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		急性脳炎 ^{*D}	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		2	1	0	3	2	1	1	1	0	2	2	1	1	2	0	1	2	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	
後天性免疫不全症候群		1	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	
侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	3	1	3	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	2	
侵襲性髄膜炎菌感染症		0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	
侵襲性肺炎球菌感染症		3	13	7	3	6	3	6	4	5	5	6	2	5	8	4	8	6	7	2	6	6	4	2	7	2	0	2	
水痘（入院例）		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	1	1	0	1	0	1	1	0	0	1	
梅毒		0	7	5	6	10	16	10	9	6	13	2	6	8	9	3	6	4	9	3	5	8	3	10	9	5	6	10	
播種性クリプトコックス症		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
破傷風		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
百日咳		0	6	10	12	11	24	19	29	30	32	29	36	39	42	98	140	128	103	119	147	149	115	128	112	156	126	173	
麻疹		0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	2	0	1	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	0	

疾 病 名		28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	計
二 類 感 染 症	結核	14	19	24	23	13	13	18	19	19	13	17	10	15	17	18	22	32	16	15	12	9	16	12	15	16	806
三 類 感 染 症	腸管出血性大腸菌感染症	2	3	6	8	9	2	8	11	13	8	10	5	15	3	1	6	10	2	2	4	1	0	1	2	1	160
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
四 類 感 染 症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*A}	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	日本紅斑熱	0	0	1	0	1	2	1	0	3	3	1	1	3	1	2	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	30
	マラリア	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	レジオネラ症	2	1	2	3	0	4	3	7	2	0	2	3	2	2	2	2	2	0	2	3	3	2	3	1	1	112
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	2	1	1	1	0	0	0	0	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	24
	ウイルス性肝炎 ^{*B}	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	10
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2	2	0	1	0	2	0	0	1	0	2	1	1	2	0	4	0	0	0	4	0	3	3	1	0	65
	急性弛緩性麻痺 ^{*C}	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	急性脳炎 ^{*D}	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	1	0	11
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	0	1	0	1	1	1	0	0	0	3	0	1	1	1	0	0	0	2	2	0	4	3	1	2	53
	後天性免疫不全症候群	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	12
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	1	1	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3	1	1	0	0	35
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	9
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	3	0	2	5	1	4	1	1	1	1	1	0	1	0	1	3	3	3	7	4	5	3	2	6	192
	水痘（入院例）	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	2	1	2	0	1	0	2	0	0	0	0	24
	梅毒	5	6	7	10	4	2	13	5	3	5	15	9	5	9	6	10	11	3	4	7	6	12	6	5	8	364
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	破傷風	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	百日咳	157	191	130	113	118	36	98	66	67	61	48	64	39	44	23	32	29	17	23	25	15	22	18	10	22	3481
	麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13

10.2 週報対象疾病の疾病別週別患者数（令和7年）

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
インフルエンザ ^{*A}	3771	6995	3415	1783	903	500	390	275	289	371	469	402	407	187	184	151	165	239
新型コロナウイルス感染症 ^{*B}	499	1058	866	976	962	991	767	715	568	532	497	408	398	293	257	251	178	193
急性呼吸器感染症 ^{*C}	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7231	8593	9212	8549
RSウイルス感染症	11	67	110	161	177	210	216	295	298	387	316	229	156	112	114	102	77	50
咽頭結膜熱	4	56	36	60	41	37	36	34	38	36	52	23	24	31	39	35	51	58
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	157	128	188	182	225	192	170	143	172	160	154	107	98	129	150	156	150
感染性胃腸炎	96	638	657	870	858	912	1029	1426	1484	1776	1587	1376	1204	926	1001	1041	949	838
水痘	9	24	24	28	19	17	11	15	14	12	24	11	17	12	9	27	19	30
手足口病	3	12	14	16	6	5	10	5	11	14	8	6	7	9	7	3	7	10
伝染性紅斑	3	32	34	35	45	20	29	24	38	36	49	57	61	37	55	63	79	59
突発性発しん	5	23	15	21	19	27	19	34	17	20	32	17	24	29	25	38	39	26
ヘルパンギーナ	0	0	0	3	0	1	1	1	2	0	1	0	1	2	1	0	5	4
流行性耳下腺炎	0	6	4	4	1	4	5	6	7	4	4	3	6	2	5	7	7	9
急性出血性結膜炎	0	2	0	5	4	2	2	4	3	2	0	4	2	0	0	0	0	1
流行性角結膜炎	6	41	18	22	31	26	27	20	22	25	23	16	19	13	12	21	16	20
細菌性髄膜炎 ^{*D}	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1
無菌性髄膜炎	1	0	3	0	0	1	0	2	0	3	0	0	1	0	3	1	2	2
マイコプラズマ肺炎	13	43	49	33	7	7	6	6	5	3	3	2	3	3	5	9	3	5
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるもの）	0	3	1	0	3	0	2	4	2	3	3	1	1	2	0	0	2	1

疾 病 名	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
インフルエンザ ^{*A}	166	210	138	91	69	45	41	46	70	56	54	36	22	52	39	70	97	86
新型コロナウイルス感染症 ^{*B}	168	168	116	125	127	149	114	211	292	330	434	564	792	814	740	1211	1265	1175
急性呼吸器感染症 ^{*C}	7096	8912	8524	8634	8457	7766	7737	7508	7670	7794	7816	6790	7338	7126	3027	6055	6760	7415
RSウイルス感染症	28	54	24	25	24	18	26	21	31	33	31	38	40	61	20	51	111	143
咽頭結膜熱	48	84	100	122	102	129	147	125	97	102	86	71	67	55	24	40	45	67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	156	227	196	199	224	225	223	203	159	198	171	109	134	142	58	100	123	152
感染性胃腸炎	737	1057	923	845	895	774	662	710	666	654	628	521	515	595	196	509	433	559
水痘	18	25	34	37	27	39	24	36	36	33	37	17	26	26	15	23	30	20
手足口病	6	8	11	19	25	28	41	47	88	86	93	86	88	68	17	53	28	49
伝染性紅斑	75	125	155	154	197	185	278	208	276	234	232	188	219	222	84	248	218	218
突発性発しん	35	32	48	41	33	45	36	41	49	34	35	28	22	37	16	19	38	23
ヘルパンギーナ	3	12	12	18	20	30	86	165	291	331	344	273	206	151	41	64	85	44
流行性耳下腺炎	6	8	12	8	12	12	15	7	8	4	6	2	4	7	2	0	6	2
急性出血性結膜炎	0	1	2	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	2
流行性角結膜炎	25	33	32	32	24	21	20	24	29	17	34	30	28	43	2	24	18	28
細菌性髄膜炎 ^{*D}	0	0	0	0	3	1	0	1	0	0	0	2	1	1	1	2	0	2
無菌性髄膜炎	1	1	0	2	1	6	4	2	4	6	2	8	6	5	5	1	7	3
マイコプラズマ肺炎	5	4	3	6	7	9	8	7	2	8	11	15	7	2	7	4	8	10
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるもの）	3	2	0	0	2	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

疾 病 名	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	計
インフルエンザ ^{*A}	98	94	113	160	187	437	959	2505	4150	6653	8042	6928	6145	5821	5551	4179	74306
新型コロナウイルス感染症 ^{*B}	1370	1110	936	704	587	460	371	401	332	311	210	204	145	156	168	155	26824
急性呼吸器感染症 ^{*C}	8397	7731	7735	8369	8331	7278	8731	11897	12649	15113	15868	13927	13323	12871	12285	11843	342358
RSウイルス感染症	174	158	151	187	177	158	137	139	118	123	121	81	72	85	77	100	5925
咽頭結膜熱	63	36	40	43	44	36	23	40	29	21	22	22	19	30	36	49	2755
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	153	139	98	149	177	136	162	178	147	189	181	143	231	223	279	223	8483
感染性胃腸炎	514	484	434	441	412	367	386	391	340	361	379	343	378	452	463	435	37127
水痘	26	22	25	16	42	7	21	22	22	28	27	28	30	31	28	38	1238
手足口病	37	28	19	11	21	9	7	10	3	3	7	4	1	3	2	3	1162
伝染性紅斑	208	149	144	147	176	99	93	110	62	78	82	74	74	46	45	47	5906
突発性発しん	32	30	22	25	14	28	33	22	16	13	14	14	16	17	27	21	1386
ヘルパンギーナ	38	42	15	12	12	11	7	7	4	2	2	0	4	1	0	2	2357
流行性耳下腺炎	3	2	6	6	4	3	1	0	9	5	8	5	4	3	2	4	270
急性出血性結膜炎	1	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47
流行性角結膜炎	31	27	23	17	16	13	24	12	19	17	11	19	17	11	12	11	1122
細菌性髄膜炎 ^{*D}	1	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	2	1	29
無菌性髄膜炎	4	2	2	1	1	3	4	0	1	0	1	1	2	2	0	2	109
マイコプラズマ肺炎	9	7	5	5	8	8	5	4	8	10	4	3	5	3	10	5	427
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	10
感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるもの）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	42

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。^{*B}病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対し、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限り。）であるものに限り。^{*C}咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例、との臨床的特徴を呈する感染症。^{*D}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

（令和8年3月31日現在の把握数）

10.3 月報対象疾病の疾病別月別患者数（令和7年）

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
性器クラミジア感染症	107	108	114	96	112	119	130	108	124	122	91	92	1323
性器ヘルペスウイルス感染症	31	35	41	32	28	39	51	29	40	38	28	42	434
尖圭コンジローマ	24	15	28	25	23	30	19	24	21	30	21	18	278
淋菌感染症	41	34	32	28	30	48	38	41	37	38	23	27	417
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	61	51	50	28	45	43	48	52	50	44	58	35	565
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	0	1	0	1	3	2	1	0	0	1	1	12
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2

（令和8年3月31日現在の把握数）

10.4 結核菌の同定試験

健康福祉事務所 （保健所）	件数
	遺伝子型別
芦屋	0
伊丹	2
宝塚	0
加古川	18
加東	0
龍野	3
赤穂	6
中播磨（福崎）	2
豊岡	7
朝来	1
丹波	6
洲本	0
保健所設置市	67
合計	112

10.5 侵襲性肺炎球菌感染症に係る依頼検査

健康福祉事務所	件数	血清型
洲本	1	38/25F/25A

10.6 腸管出血性大腸菌感染症に係る依頼検査

健康福祉事務所(保健所)	件数		
	O157	O26	その他の血清型
芦屋	0	0	1
宝塚	0	0	0
伊丹	7	0	2
加古川	8	0	2
加東	3	1	0
中播磨(福崎)	0	0	0
龍野	3	0	0
赤穂	0	0	0
豊岡	2	18	0
朝来	0	0	1
丹波	1	0	0
洲本	1	0	4

その他の血清型:O91,O103,O145,O128, O113

血清型	MLVA型別結果	感染者間の関係	件数
0157 : H-	同一complex	家族	4
0157 : H7	一致		2
026 : H11	同一complex		18
0145 : H-	一致※		2

※国立感染症研究所で実施

10.7 細菌による食中毒(疑)事例の感染源, 感染経路調査

健康福祉事務所	病原菌	件数	当所での検査等
洲本	セレウス菌	10	毒素産生試験、セレウリド遺伝子検査

10.8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症に係る依頼検査

健康福祉事務所	菌種	件数	群別※, T型別※, EMM型※
豊岡	<i>Streptococcus agalactiae</i>	1	B群, Ia型
宝塚	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T型別不能, EMM77.0
豊岡	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T型別不能, EMM89.0
加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T型別不能, EMM81.0
宝塚	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	1	G群, STG485.0
加東	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	1	G群, STG2574.5
宝塚	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	1	G群, STG840.0
加古川	<i>Streptococcus agalactiae</i>	1	B群, V型
豊岡	<i>Streptococcus agalactiae</i>	1	B群, IX型

※国立感染症研究所で実施

10.9 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症に係る依頼検査

健康福祉事務所（保健所）	菌種	件数	カルバペネマーゼ陽性件数
加東	<i>K. pneumoniae</i>	2	0
	<i>K. oxytoca</i>	1	1
	<i>E. cloacae</i>	1	0
	<i>S. marcescens</i>	1	0
中播磨（福崎）	<i>E. coli</i>	1	1
龍野	<i>K. pneumoniae</i>	2	0
赤穂	<i>E. coli</i>	2	1
	<i>K. pneumoniae</i>	2	2
	<i>E. cloacae</i>	1	1
豊岡	<i>E. coli</i>	1	0
	<i>S. marcescens</i>	1	0
丹波	<i>S. marcescens</i>	1	0
	<i>K. pneumoniae</i>	1	0
	<i>K. oxytoca</i>	1	0

菌種	件数	検出されたカルバペネマーゼ遺伝子
<i>K. oxytoca</i>	1	NDM-5
<i>E. coli</i>	1	IMP-6
<i>E. coli</i>	1	NDM-13
<i>K. pneumoniae</i>	2	IMP-6
<i>E. cloacae</i>	1	IMP-6

10.10 その他の細菌の依頼検査

健康福祉事務所、他	検体	件数 (患者数)	当所での検査等	当所での検査結果
加古川	カンピロバクター属菌、病原性大腸菌	8	菌種同定、血清型別、病原遺伝子検索	<i>C. jejuni</i> , O25:H4 <i>astA</i> 陽性等
加古川	ジフテリア菌	1	ジフテリア毒素遺伝子検出	陰性
伊丹	髄液、血液、尿、血清	1	レプトスピラ抗体検査※、DNA検査※	抗体:陰性、DNA:陰性
龍野	サルモネラ属菌	1	血清型別	<i>S. Schwarzengrund</i>
洲本	サルモネラ属菌	1	血清型別	<i>S. Thompson</i>
龍野	カンピロバクター属菌	1	菌種同定	<i>C. jejuni</i>
宝塚	サルモネラ属菌	2	血清型別	<i>S. Infantis</i> , <i>S. Mbandaka</i>
宝塚	サルモネラ属菌	1	血清型別	<i>S. Thompson</i>
宝塚	カンピロバクター属菌	1	菌種同定	<i>C. jejuni</i>
加古川	サルモネラ属菌	4	血清型別	<i>S. Infantis</i> , <i>S. Schwarzengrund</i> (2), <i>S. Thhphimurium</i>
洲本	コレラ菌	1	血清型別、コレラ毒素遺伝子検出	<i>Vibrio cholerae</i> non-O1, non-O139 コレラ毒素遺伝子陰性
朝来	全血、血清、咽頭拭い液、喀痰	1	遺伝子検査、オウム病抗体検査※	遺伝子検査:陰性、抗体検査:陽性
伊丹	髄膜炎菌	1	血清群※、遺伝子型※、薬剤感受性※	血清群:Y, 遺伝子型:ST-1466, 薬剤感受性:ペニシリンGに非感受性
宝塚	サルモネラ属菌	1	血清型別	<i>S. Schwarzengrund</i>
赤穂	血清	2	レプトスピラ抗体検査※、DNA検査※	抗体:陰性、DNA:陰性
龍野	サルモネラ属菌	1	血清型別	<i>S. Thompson</i>
加古川	サルモネラ属菌、病原性大腸菌	4	血清型別、病原遺伝子検索	<i>S. Stanley</i> , O18:H7等、病原遺伝子すべて陰性
洲本	サルモネラ属菌	1	血清型別	<i>S. Madjorio</i>

※国立感染症研究所で実施

10.11 クドアに係る依頼検査

健康福祉事務所	検体	件数	当所での検査等
赤穂	食品	4	<i>K. septempunctata</i> 検査、顕微鏡検査、 <i>K. iwatai</i> 遺伝子検査、 <i>K. hexapunctata</i> 遺伝子検査
洲本	喫食者便	3	<i>K. septempunctata</i> 遺伝子検査、 <i>K. iwatai</i> 遺伝子検査、 <i>K. hexapunctata</i> 遺伝子検査
洲本	患者便	3	<i>K. septempunctata</i> 遺伝子検査、 <i>K. iwatai</i> 遺伝子検査、 <i>K. hexapunctata</i> 遺伝子検査
宝塚	患者便	1	<i>K. septempunctata</i> 遺伝子検査、 <i>K. iwatai</i> 遺伝子検査、 <i>K. hexapunctata</i> 遺伝子検査
伊丹	患者便	1	<i>K. septempunctata</i> 遺伝子検査、 <i>K. iwatai</i> 遺伝子検査、 <i>K. hexapunctata</i> 遺伝子検査
芦屋	患者便	7	<i>K. septempunctata</i> 検査、 <i>K. iwatai</i> 遺伝子検査、 <i>K. hexapunctata</i> 遺伝子検査
芦屋	患者便	2	<i>K. septempunctata</i> 遺伝子検査
保健所設置市	食品、患者便	5	<i>K. septempunctata</i> 検査、顕微鏡検査、 <i>K. iwatai</i> 遺伝子検査、 <i>K. hexapunctata</i> 遺伝子検査

10.12 輸入ナチュラルチーズのリストeria菌の検査

月日	健康福祉事務所	件数	当所での検査結果
6/3	加東	4	陰性
6/3	伊丹	4	陰性
11/10	加古川	4	陰性
11/10	宝塚	3	陰性

10.13 インフルエンザウイルスの検出状況

検体搬入年月	検体数	ウイルス検出数				
		A(H1N1) pdm09	A香港型	B型 (Victoria系統)	B型 (Yamagata系統)	陰性
令和7年4月	2	0	0	2	0	0
5月	0	0	0	0	0	0
6月	2	0	0	2	0	0
7月	1	0	0	0	0	1
8月	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0
10月	2	0	2	0	0	0
11月	3	0	3	0	0	0
12月	7	0	0	0	0	7
令和8年1月	9	0	6	2	0	1
2月	11	0	4	3	0	4
3月	0	0	0	0	0	0
合計	37	0	15	9	0	13

10.14 豚日本脳炎ウイルス抗体保有状況

採血月日	検査頭数	HI抗体価								陽性率 (%)	2ME感受性 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
6/11	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/25	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/2	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/23	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8/6	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8/27	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9/3	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9/17	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0

10.15 蚊媒介感染症の検査

疾患名	検体数	患者数(陽性数)	ウイルス型(検出人数)	備考
デング熱	13	6(3)	Dengue 1 (1), Dengue 3 (2)	インドネシア(3) 渡航
チクングニア熱	13	6(0)	-	-
ジカウイルス感染症	13	6(0)	-	-

10.16 ダニ媒介感染症の検査

疾患名	検体数	患者数	陽性数	備考
日本紅斑熱	96	36	12	遺伝子検査及び抗体検査
つつがむし病	80	30	1	遺伝子検査及び抗体検査
重症熱性血小板減少症候群	38	30	3	遺伝子検査

10.17 集団嘔吐下痢症からのノロウイルス等の検出状況

事例No.	月	日	健康福祉 事務所	原因施設	感染経路	原因食	対象者	患者数	検体	検体数	陽性数	検出 ウイルス
1	4	2	加古川	飲食店	食品	施設が提供 した食事	49	6	有症者便	2	0	
2	4	10	宝塚	飲食店	食品	施設が提供 した食事	20	13	有症者便	1	1	NoV G II
3	5	19	伊丹	不明	食品疑い	不明	72	31	有症者便	1	0	
4	5	30	伊丹	飲食店	食品	施設が提供 した食事	13	7	有症者便	1	0	
5	6	2	伊丹	不明	食品疑い	不明			有症者便	1	0	
6	6	28	芦屋	不明	食品疑い	不明	39	15	有症者便	1	1	NoV G II
7	7	17	伊丹	不明	食品疑い	不明	5	3	有症者便	1	0	
8	8	26	宝塚 伊丹	不明	食品疑い	不明	42	12	有症者便	2	0	
9	9	1	宝塚	不明	食品疑い	不明	95	2	有症者便	1	1	NoV G II
10	12	15	加古川	不明	食品疑い	不明			有症者便	1	1	NoV G II
11	12	17	芦屋 龍野 宝塚	製造業	食品	施設が製造 した食事	209	113	有症者便	3	3	NoV G II
12	12	18	加古川	不明	食品疑い	不明	43	5	有症者便	3	0	
13	12	26	加古川	飲食店	食品	施設が提供 した食事	37	9	有症者便	2	2	NoV G II
14	1	1	豊岡	飲食店	食品	施設が提供 した食事	101	21	有症者便 調理従事者 拭き取り	5 10 5	5 8 0	NoV G II
15	1	4	宝塚	飲食店	食品	施設が提供 した食事	151	95	有症者便	1	1	NoV G II
16	1	8	龍野	不明	食品疑い	不明	16	13	有症者便	2	2	NoV G II
17	1	20	伊丹	飲食店	食品疑い	不明	18	6	有症者便 調理従事者 拭き取り	1 3 5	1 1 0	NoV G II
18	2	3	伊丹	飲食店	食品	施設が製造 した弁当		32	有症者便	2	2	NoV G II
19	2	6	宝塚	不明	食品疑い	不明	56	21	有症者便	1	1	NoV G II
20	3	5	加東 加古川	飲食店	食品	施設が提供 した食事	567	22	有症者便 調理従事者 拭き取り	8 11 7	8 0 0	NoV G II
21	3	7	丹波	飲食店	食品	施設が提供 した食事	43	19	有症者便 調理従事者	6 3	6 3	NoV G II
22	3	10	加東	飲食店	食品	施設が調整 した弁当	17	12	有症者便 調理従事者	10 19	9 4	NoV G II
23	3	16	朝来	飲食店	食品	施設が提供 した食事	165	8	有症者便	2	2	NoV G II

NoV G I : ノロウイルスG I、NoV G II : ノロウイルスG II

10.18 麻しん及び風しんウイルスの検出状況

健康福祉 事務所 (保健所)	麻しんウイルス				風しんウイルス			
	検査数		陽性数		検査数		陽性数	
	患者数	検体数	患者数	遺伝子型(患者数)	患者数	検体数	患者数	遺伝子型(患者数)
芦屋	3	5	0	－	3	5	0	－
宝塚	9	27	0	－	9	27	0	－
伊丹	27	74	0	－	27	74	0	－
加古川	8	23	1	D8 (1)	2	6	0	－
加東	3	9	0	－	0	0	0	－
中播磨(福崎)	1	3	0		0	0	0	
保健所設置市	5	15	0	－	1	2	0	－
合計	56	156	1		42	114	0	

10.19.1 感染症発生動向調査における月別病原体検査件数（ARI 定点）

検体採取月 検体数(患者数)		令和7年												令和8年			合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
検査材料	咽頭ぬぐい液	80	94	90	108	85	103	86	104	84	84	86	70				1074
	鼻咽頭ぬぐい液	3	5	1	3	2	0	4	5	3	2	0	0				28
	鼻腔ぬぐい液	10	14	15	33	28	27	25	46	27	28	30	15				298
	鼻汁	53	66	59	67	49	69	52	50	53	53	56	55				682
		14	9	15	5	6	7	5	3	1	1	0	0				66

10.19.2 感染症発生動向調査における月別疾患別病原体検出件数（ARI 定点）

疾患名 検出病原体		令和7年												令和8年			合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
急性呼吸器感染症	インフルエンザウイルスA型 AH1pdm09	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	1	0				5
	インフルエンザウイルスA型 AH3	1	1	0	0	0	1	11	46	38	12	2	0				112
	インフルエンザウイルスB型 ビクトリア系統	3	1	1	1	0	1	2	0	1	13	38	9				70
	ヒトパラインフルエンザウイルス1型	0	1	2	0	1	0	5	3	0	1	0	0				13
	ヒトパラインフルエンザウイルス2型	0	0	0	1	3	1	0	4	0	0	0	0				9
	ヒトパラインフルエンザウイルス3型	3	21	29	10	2	0	0	0	0	0	0	1				66
	ヒトパラインフルエンザウイルス4型	0	1	2	7	3	2	0	1	0	0	0	0				16
	RSウイルスA型	0	2	0	0	2	1	3	0	1	5	7	1				22
	RSウイルスB型	3	4	0	0	2	10	4	3	0	5	0	0				31
	ヒトメタニューモウイルス	2	0	1	1	2	0	1	0	1	1	0	3				12
	ライノウイルス	19	19	13	13	6	20	16	12	11	6	2	6				143
	エンテロウイルス	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0				5
	アデノウイルス	0	0	5	0	1	1	0	0	0	0	1	1				9
	新型コロナウイルス	9	3	5	25	30	37	16	10	6	0	1	3				145
	検出数(合計)	40	53	58	61	54	75	58	79	59	45	52	24				658
	検出なし	42	44	36	50	36	34	31	33	29	40	34	47				456

10.20.1 感染症発生動向調査における月別病原体検査件数（小児科定点）

検体採取月		令和7年						令和8年						合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
検体数		17	5	0	4	6	11	2	9	0	4	4	1	63
患者数		16	5	0	3	5	9	2	6	0	4	4	1	55
検査材料	咽頭ぬぐい液	2	2	0	2	2	1	0	1	0	0	0	0	10
	鼻腔ぬぐい液	8	1	0	0	3	7	2	4	0	2	2	0	29
	髄液	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	便	7	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	12
	尿	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	4
	血液	0	0	0	1	0	1	0	1	0	2	0	0	5
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

10.20.2 感染症発生動向調査における月別疾患別病原体検出件数（小児科定点）

疾患名	検出病原体	令和7年									令和8年				合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
感染性胃腸炎	ノロウイルス GⅡ.4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
	ノロウイルス GⅡ.17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	A群ロタウイルス	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	ライノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
RSウイルス感染症	RSウイルス	8	1	0	0	1	7	2	3	0	2	2	0	26	
	ライノウイルス	2	1	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	7	
	コクサッキーウイルス A4型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	ヒトメタニューモウイルス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	新型コロナウイルス	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	
	アデノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
流行性耳下腺炎	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
呼吸器疾患 (上気道炎・下気道炎)	ライノウイルス	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	A群溶血性レンサ球菌	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	ライノウイルス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
侵襲性インフルエンザ菌感染症	インフルエンザ菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
その他(肝機能障害等)	単純ヘルペスウイルス(HSV)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	パルボウイルスB19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
	ノロウイルス GⅡ.4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
検出数(合計)		19	7	0	1	5	9	4	8	0	3	2	1	59	

10.21 農産物の残留農薬試験結果

(国産品)

実施期間：令和7年5月～令和7年11月

分 類	食品分類	検 出 農 薬 名	検出数 / 検体数	検出値 ppm	基準値 ppm
野 菜	かぼちゃ	プロチオホス	1 / 9	0.01	0.01
	かんしょ	—	0 / 7		—
	キャベツ	—	0 / 1		—
	きゅうり	アセタミプリド	1 / 6	0.05	2
		イプロジオン	1 /	0.02	4
		クロチアニジン	1 /	0.18	2
		クロルフェナピル	1 /	0.02	0.5
		ジノテフラン	3 /	0.01～0.02	2
		シベルメトリン	1 /	0.01	0.3
		プロシミドン	1 /	0.24	4
	きょうな	—	0 / 1		—
	こまつな	ジノテフラン	1 / 1	0.06	10
	だいこん類の根	—	0 / 2		—
	チンゲンサイ	—	0 / 1		—
	トマト	クロチアニジン	1 / 11	0.02	3
		ジェトフェンカルブ	1 /	0.04	2
		ジノテフラン	1	0.05	2
		チアメトキサム	2	0.01～0.03	2
		フロニカミド	1 /	0.02	2
	なす	ペルメトリン	1 / 4	0.02	1
	にんじん	—	0 / 4		—
	ばれいしょ	—	0 / 6		—
	ピーマン	メタラキシル	1 / 2	0.17	2
	ブロッコリー	アゾキシストロビン	1 / 1	0.01	5
	レタス	—	0 / 2		—
	その他のうり科野菜	—	0 / 4		—
	その他のなす科野菜	—	0 / 1		—
	その他の野菜	—	0 / 1		—
果 実	かき	フルベンジアミド	0 / 1		—

検体数：65

20 / 65

(輸入品)

実施期間：令和7年5月～令和7年11月

分 類	食品分類	検 出 農 薬 名	検出数 / 検体数	検出値 ppm	基準値 ppm
野 菜	こまつな	イミダクロプリド	1 / 2	0.04	5
		シペルメトリン	1 /	0.14	6
		ジメトモルフ	1 /	0.14	30
		メタラキシル	2 /	0.01～0.02	1
		メトキシフェノジド	2 /	0.02～0.13	30
	ピーマン	アセタミプリド	2 / 3	0.02	1
		アゾキシストロビン	1 /	0.01	3
		イプロジオン	1 /	0.06	15
		イミダクロプリド	2 /	0.04～0.05	3
		エトキサゾール	2 /	0.03	0.01
		カルベンダジム	1 /	0.03	3
		クロチアニジン	3 /	0.04～0.09	3
		ジノテフラン	3 /	0.09～0.12	3
		ジフェノコナゾール	2 /	0.01	2
		ジメトモルフ	1 /	0.02	2
		チアメトキサム	3 /	0.10～0.17	1
		テトラコナゾール	1 /	0.05	0.3
		テブコナゾール	3 /	0.01～0.03	1
		トルフェンピラド	1 /	0.01	2
		ビフェントリン	3 /	0.01～0.03	0.5
		ピラクロストロビン	2 /	0.02～0.03	1
		ピリプロキシフェン	3 /	0.03～0.07	3
		フルトリアホール	1 /	0.01	1
		プロシミドン	2 /	0.01	10
		フロニカミド	3 /	0.01～0.03	3
		ヘキサコナゾール	1 /	0.01	0.01
	ほうれんそう	イミダクロプリド	1 / 2	0.04	15
		クロチアニジン	1 /	0.03	40
	未成熟いんげん	ボスカリド	1 / 2	0.12	5
	その他のうり科野菜		0 / 1		—
果 実	キウイ	—	0 / 2		—
	パイナップル	—	0 / 2		—
	バナナ	カルベンダジム	1 / 6	0.01	3
		クロルピリホス	2 /	0.01～0.02	2
		ブプロフェジン	1 /	0.03	0.3
	りんご	—	0 / 1		—

検体数：21

55 / 21

検査項目一覧（農薬 295 種，代謝物 5 種）

農 薬	定量限界(ppm)	農 薬	定量限界(ppm)	農 薬	定量限界(ppm)	農 薬	定量限界(ppm)
BHC(α -, β -, γ -, δ -)	0.005	クロフェンシジン	0.01	ダイアジノン	0.01	ビラフルフェンエチル	0.01
DDT (α , p' -, p -, p'' -)	0.01	クロマゾン	0.01	ダイアレート	0.01	ビリダフェンチオン	0.01
EPN	0.01	クロマフェシト	0.01	ダイムロン	0.01	ビリダベン	0.01
EPTC	0.01	クロメブロッブ	0.01	チアクロプリド	0.01	ビリダリル	0.01
TCMTB	0.01	クロラントラニリブロール	0.01	チアトキサム	0.01	ビリフェメックス(-E, -Z)	0.01
アクリナトリン	0.01	クロルエトキシホス	0.01	チオシカルブ	0.01	ビリブチカルブ	0.01
アジノホスメチル	0.01	クロルタールジメチル	0.01	チオベンカルブ	0.01	ビリブロキシフェン	0.01
アセチプリド	0.01	クロルデン(シス-, トランス-)	0.01	チオメトン	0.01	ビリミカーブ	0.01
アセトクロール	0.01	クロルピリホス	0.01	チフルサミド	0.01	ビリミジフェン	0.01
アセフェート	0.01	クロルピリホスメチル	0.01	ディルドリン	0.005	ビリミノバックメチル(-E, -Z)	0.01
アゾキシストロビン	0.01	クロルフェナビル	0.01	テクナゼン	0.01	ビリミホスメチル	0.01
アトラジン	0.01	クロルフェンソ	0.01	テトラクロルピリホス	0.01	ビリメタニル	0.01
アニコホス	0.01	クロルフェンピリホス(-E, -Z)	0.01	テトラコナゾール	0.01	ビロキロン	0.01
アメトリン	0.01	クロルブファム	0.01	テトラジホス	0.01	ピンクロゾリン	0.01
アラクロール	0.01	クロルフルアズロン	0.01	テニルクロール	0.01	ファミフル	0.01
アルシカルブ	0.01	クロルブロファム	0.01	テブコナゾール	0.01	ファモキサト	0.01
アルドリ	0.005	クロロクスロン	0.01	テブチウロン	0.01	フィプロニル	0.002
イサゾホス	0.01	クロロベンシレート	0.01	テブフェシト	0.01	フェナミホス	0.01
イソフェンホス	0.01	シアナジン	0.01	テブフェンピラト	0.01	フェナリモル	0.01
イソプロカルブ	0.01	シアノホス	0.01	テフルトリン	0.01	フェニトロチオン	0.01
イソプロチオラン	0.01	ジウロン	0.01	テメトンSメチル	0.01	フェノキサニル	0.01
イブロジオン	0.01	ジエトフェンカルブ	0.01	テメタメトリン	0.01	フェノキシカルブ	0.01
イブロバリカルブ	0.01	ジオキサチオン	0.01	テルブトリン	0.01	フェノキサブロッブエチル	0.01
イブロベンホス	0.01	ジクロシメット	0.01	テルブホス	0.005	フェノチオカルブ	0.01
イミダクロプリド	0.01	ジクロフェンチオン	0.01	トリアシメノール	0.01	フェバトリン	0.01
イミベンコナゾール	0.01	ジクロフルアニド	0.01	トリアシメホス	0.01	フェノブカルブ	0.01
インドキサカルブ	0.01	ジクロホップメチル	0.01	トリアゾホス	0.01	フェリムゾン(-E, -Z)	0.01
エチオン	0.01	ジクロラン	0.01	トリアレート	0.01	フェンアミド	0.01
エディフェンホス	0.01	ジクロルホス	0.01	トリシクラゾール	0.01	フェンクロルホス	0.01
エキサゾール	0.01	ジコホール	0.01	トリチコナゾール	0.01	フェンシルホチオン	0.01
エトフェンプロックス	0.01	ジスルホトン	0.01	トリブホス	0.01	フェンチオン	0.01
エトプロホス	0.01	シニトニエチル	0.01	トリフルミゾール	0.01	フェントエート	0.01
エトリンアゾール	0.01	ジノテフラン	0.01	トリフルラリン	0.01	フェンバレレート	0.01
エホキシコナゾール	0.01	シハロリン	0.01	トリフロキシストロビン	0.01	フェンピロキシメート(-E, -Z)	0.01
エンドスルファン(α -, β -)	0.01	シハロホップブチル	0.01	トルクロホスメチル	0.01	フェンブコナゾール	0.01
エンドリン	0.005	ジフェナミド	0.01	トルフェンピラト	0.01	フェンブバトリン	0.01
オキサシアン	0.01	ジフェノコナゾール	0.01	ナブロアニド	0.01	フサライド	0.01
オキサジキシル	0.01	シフルトリン	0.01	ナブロバミド	0.01	ブタクロール	0.01
オキサジクロホス	0.01	シフルフェナミド	0.01	ニトラピリン	0.01	ブタフェナシル	0.01
オキシクロルテン	0.01	シフルフェニカン	0.01	ニトロタールイソプロピル	0.01	ブタホス	0.01
オメエート	0.01	シフルベンズロン	0.01	ノバルロン	0.01	ブビリメート	0.01
オリザリン	0.01	シブコナゾール	0.01	ノルフルラゾン	0.01	ブブプロフェジン	0.01
カスサホス	0.01	シブロジニル	0.01	バーバン	0.01	フラチオカルブ	0.01
カルバリル	0.01	シベルメトリン	0.01	バクロブトラゾール	0.01	フラムブロッブメチル	0.01
カルフェントラゾンエチル	0.01	シマジン	0.01	バミドチオン(XMC)	0.01	フルアクリピリム	0.01
カルブロバミド	0.01	ジメタメトリン	0.01	ハラチオン	0.01	フルキンコナゾール	0.01
カルベンダシム(MBC)	0.01	ジメチルピリホス(-E, -Z)	0.01	ハラチオンメチル	0.01	フルシオキシニル	0.01
カルボフラン	0.01	ジメトエート	0.01	ハルフェンプロックス	0.01	フルシトリネート	0.01
キサロホップエチル	0.01	ジメトモルフ(-E, -Z)	0.01	ピコリナフェン	0.01	フルシラゾール	0.01
キナルホス	0.01	シメトリン	0.01	ピテルタノール	0.01	フルトラニル	0.01
キノキシフェン	0.01	ジメビレレート	0.01	ピフェントリン	0.01	フルトリアホール	0.01
キャブタン	0.01	シラフルオフェン	0.01	ビベロニルプロキシト	0.01	フルバリネート	0.01
キントゼン	0.01	スピロテトラマト	0.01	ビベロホス	0.01	フルフェナセット	0.01
クレソキシムメチル	0.01	ゾキサミド	0.01	ビラクロストロビン	0.01	フルフェノクスロン	0.01
クロチアニジン	0.01	ターバシル	0.01	ビラゾホス	0.01	フルフェンピルエチル	0.01

フルベンジ ⁺ アミド ⁻	0.01	プロボキスル	0.01	ベンチオビ ⁺ ラト ⁻	0.01	メチダチオン	0.01
フルミオキサジン	0.01	プロマシル	0.01	ベンディ ⁺ メタリン	0.01	メトキシクロール	0.01
フルミクロラックベンチル	0.01	プロメトリン	0.01	ベンフラカルブ ⁺	0.01	メトキシフェノシド ⁺	0.01
フルリト ⁺ ン	0.01	プロモブ ⁺ チド ⁻	0.01	ベンフルラリン	0.01	メミノストロビ ⁺ ン(-E)	0.01
プレチラクロール	0.01	プロモブ ⁺ ロビ ⁺ レート	0.01	ベンフレセート	0.01	メトラクロール	0.01
プロクロラス ⁺	0.01	プロモホス	0.01	ホサロン	0.01	メパ ⁺ ニヒ ⁺ リム	0.01
プロシミト ⁺ ン	0.01	プロモホスエチル	0.01	ホ ⁺ スカリト ⁻	0.01	メビ ⁺ ンホス(-E,-Z)	0.01
プロチオホス	0.01	ヘキサクロロベンゼン	0.01	ホスチアゼート	0.01	メフェナセツ	0.01
プロニカミト ⁺	0.01	ヘキサコナゾール	0.01	ホスファミト ⁺ ン(-E,-Z)	0.01	メフェニ ⁺ ブルジ ⁺ エチル	0.01
プロバキサ ⁺ ホップ ⁺	0.01	ヘキサジ ⁺ ノン	0.01	ホスメツ	0.01	メブ ⁺ ロニル	0.01
プロバ ⁺ クロー	0.01	ベナラキシル	0.01	ホレート	0.01	モノクロホス	0.01
プロバ ⁺ シン	0.01	ベノキサコール	0.01	マラチオン	0.01	モノリニユロン	0.01
プロバ ⁺ ニル	0.01	ヘブ ⁺ タクロル	0.01	ミクロブ ⁺ タニル	0.01	リニユロン	0.01
プロバ ⁺ ホス	0.01	ベルタン	0.01	メカルバム	0.01	ルフエヌロン	0.01
プロバ ⁺ ルギット	0.01	ベルメトリン	0.01	メソミル	0.01	レナシル	0.01
プロビ ⁺ コナゾール	0.01	ベンコナゾール	0.01	メタクリホス	0.01		
プロビ ⁺ ザミト ⁺	0.01	ベンシクロン	0.01	メタベンズ ⁺ チアズ ⁺ ロン	0.01		
プロビト ⁺ ロシ ⁺ ャスモン	0.01	ベンゾ ⁺ フェナツブ ⁺	0.01	メタミト ⁺ ホス	0.01		
プロフェノホス	0.01	ベンダイオカルブ ⁺	0.01	メタラキシル	0.01		
プロベ ⁺ タンホス	0.01	ベンチアハ ⁺ リカルブ ⁺ イソブ ⁺ ロビ ⁺ ル	0.01	メチオカルブ ⁺	0.01		
[代謝物]							
DDD (p,p ⁺)	0.01						
DDE (p,p ⁺)	0.01						
イソフェノホスオキシソ	0.01						
エンドスルファンスルファート	0.01						
ジスルホトンスルホン	0.01						

10.22 国産食肉の残留農薬試験結果

実施期間：令和7年8月

品 名	検出農薬名	検出数 / 検体数	検出値 ppm	基準値 ppm
牛肉	—	0 / 4	ND	—
豚肉	—	0 / 4	ND	—
鶏肉	ペルメトリン	1 / 4	0.01	0.1

総検体数：12 ND：定量限界値未満

検査項目一覧（農薬194種、代謝物6種）					
農 薬	定量限界(ppm)	農 薬	定量限界(ppm)	農 薬	定量限界(ppm)
DDT (o,p'-,p,p'-)	0.01	クロネブ	0.01	フェニトロチオン	0.01
EPTC	0.01	クロロベンジレート	0.01	フェノキサニル	0.01
γ-BHC	0.01	ジクロホップメチル	0.01	フェノキサプロップエチル	0.01
アザメチホス	0.01	ジクロラン	0.01	フェノキシカルブ	0.01
アジンホスメチル	0.01	ジクロルホス	0.01	フェノリン	0.01
アセタフリド	0.01	ジコホール	0.01	フェノプロカルブ	0.01
アゾキシストロビン	0.01	ジスルホトン	0.01	フェリムゾン	0.01
アトラジン	0.01	シハロリン	0.01	フェンアミドン	0.01
アニホス	0.01	ジフェノコナゾール	0.01	フェンチオン	0.01
アメトリン	0.01	シフルトリン	0.01	フェントラザミド	0.01
アラクロール	0.01	シフルフェニカ	0.01	フェンハレレート	0.01
アルジカルブ	0.01	シフルベンズロン	0.01	フェンピロキシメート	0.005
アルドリ	0.01	シプロコナゾール	0.01	フェンブコナゾール	0.01
アレスリン	0.01	シプロシニル	0.01	フェンプロハトリ	0.01
イソキサチオン	0.01	シベルメトリ	0.01	フェンメディファム	0.01
イソキサフルトール	0.02	シマジン	0.01	ブタフェナシル	0.01
イプロジオン	0.01	シメコナゾール	0.01	ブプロフェジン	0.01
イプロバカリブ	0.01	シメトエート	0.01	フラチオカルブ	0.01
イマザリル	0.01	シメトリ	0.01	フラムプロップメチル	0.01
イミダクロプリド	0.01	スピロシクロフェン	0.01	フルキンコナゾール	0.01
インドキサカルブ	0.01	ダイアジノン	0.01	フルジオキソニル	0.01
エチオン	0.01	ダイアレート	0.01	フルシトリネート	0.01
エディフェンホス	0.01	ダイムロン	0.01	フルシラゾール	0.01
エトキサゾール	0.01	チアベンダゾール	0.01	フルトラニル	0.01
エトメセート	0.01	チオベンカルブ	0.01	フルフェナセット	0.01
エトプロホス	0.01	チオメトン	0.01	フルミクロラックベンチル	0.01
エトリジアゾール	0.01	ティルトリン	0.01	フルリトリン	0.01
エホキシコナゾール	0.01	テクナゼン	0.01	ブクロラズ	0.01
エンドスルファム(α-,β-)	0.01	テブコナゾール	0.01	プロシメトン	0.01
エンドリン	0.01	テブフェノシド	0.01	プロバキサホップ	0.01
オキサジアゾン	0.01	テブラロキシジム	0.01	プロバクロール	0.01
オキサジクロメホン	0.01	テルタメトリ	0.01	プロハニル	0.01
オキサベトリニル	0.01	テルブトリ	0.01	プロハルキット	0.01
オキシフルオルフェン	0.01	テルブホス	0.01	プロヒコナゾール	0.01
カルハリル	0.01	トリアジメノール	0.01	プロヒサミド	0.01
カルフェントラゾンエチル	0.01	トリアジメホン	0.01	プロフェノホス	0.01
カルベタト	0.01	トリアゾホス	0.01	プロホキスル	0.01
カルベンダジム	0.01	トリアレート	0.01	プロメトリ	0.01
カルホキシ	0.01	トリチコナゾール	0.01	プロモプロレート	0.01
カルホフラン	0.01	トリフルミゾール	0.01	ヘキサジノン	0.01
キサロホップエチル	0.01	トリフルムロン	0.01	ヘナラキシル	0.01
キナルホス	0.01	トリフルラリン	0.01	ヘタタロル	0.01
キノキシフェン	0.01	トリフロキシストロビン	0.01	ヘルメトリ	0.01
キントゼン	0.01	ニトラピリン	0.01	ベンコナゾール	0.01
クミルロン	0.01	ノルフルラジン	0.01	ベンゾフェナップ	0.01
クレシキムメチル	0.01	ハラチオン	0.01	ベンダイオカルブ	0.01
クレシム	0.01	ハラチオンメチル	0.01	ベンディメタリン	0.01
クロキントセツメキシル	0.01	ハロキシホップ	0.01	ホスカリド	0.01
クロジナホッププロパルキル	0.01	ヒコリナフェン	0.01	ホスメット	0.01
クロチアニジン	0.01	ヒテルタノール	0.01	ホレート	0.01
クロフェンテジン	0.01	ヒフェントリン	0.01	マラチオン	0.01
クロマゾン	0.01	ヒペロニルプロキスト	0.01	ミクロフタニル	0.01
クロマフェノシド	0.01	ヒラクロストロビン	0.01	メタクリホス	0.01
クロメプロップ	0.01	ヒラゾホス	0.01	メタベンスチアスロン	0.01
クロルタルジメチル	0.01	ヒリダベン	0.01	メタラキシル	0.01
クロルテン(シス-,トランス-)	0.01	ヒリファリド	0.01	メチダチオン	0.01
クロルピリホス	0.01	ヒリプロキシフェン	0.01	メキシクロー	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	ヒリミカーブ	0.01	メキシフェノシド	0.01
クロルフェナビル	0.01	ヒリミホスメチル	0.01	メトラクロー	0.01
クロルフェンソ	0.01	ヒリメタニル	0.01	メトリジン	0.01
クロルフェンピホス	0.01	ヒンクログリン	0.01	メハニピリム	0.01
クロルブファム	0.01	ファモキサドン	0.01	メフェンビルジエチル	0.01
クロルフルアスロン	0.01	フィプロニル	0.01	モノリニロン	0.01
クロルベンシド	0.01	フェナミホス	0.01	リニロン	0.01
クロロクスロン	0.01	フェナリモル	0.01		
[代謝物]					
DDD (p,p'-)	0.01	オキシクロロテン	0.01	ヘタタロルエホキシド	0.01
DDE (p,p'-)	0.01	ジスルホトンスルホン	0.01		
ジコホール代謝物：4,4'-ジクロロベンゾフェノ			0.01		

10.23 畜水産食品等の残留医薬品試験結果（輸入畜水産食品）

実施期間：令和7年6月～令和7年9月

品 名	試 験 項 目	検出数 / 検体数	検出値 ppm	基準値 ppm	定量限界値 ppm
牛肉	オキシテトラサイクリン	0 / 5	ND	} 0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 5	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 5	ND		0.03
	ドキシサイクリン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.05
	エンロフロキサシン	0 / 5	ND	} 0.05	0.01
	シプロフロキサシン	0 / 5	ND		0.01
	オフロキサシン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	サラフロキサシン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	ジフロキサシン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	ノルフロキサシン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	オキシリニック酸	0 / 5	ND	0.1	0.01
	フルメキン	0 / 5	ND	0.5	0.01
	スルファキノキサリン	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファジアジン	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファジミジン	0 / 5	ND	0.10	0.01
	スルファジメトキシ	0 / 5	ND	0.05	0.01
	スルファチアゾール	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファドキシ	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファベンズアミド	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキシピリダジン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメラジン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファモノメトキシ	0 / 5	ND	0.01	0.01
	ゼラノール	0 / 5	ND	0.002	0.002
	β-トレンボロン	0 / 5	ND	0.002	0.002
豚肉	オキシテトラサイクリン	0 / 5	ND	} 0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 5	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 5	ND		0.03
	ドキシサイクリン	0 / 5	ND	0.05	0.05
	エンロフロキサシン	0 / 5	ND	} 0.05	0.01
	シプロフロキサシン	0 / 5	ND		0.01
	オフロキサシン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	サラフロキサシン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	ジフロキサシン	0 / 5	ND	0.02	0.01
	ノルフロキサシン	0 / 5	ND	0.02	0.01
	オキシリニック酸	0 / 5	ND	0.02	0.01
	フルメキン	0 / 5	ND	0.5	0.01
	スルファキノキサリン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 5	ND	0.05	0.01
	スルファジアジン	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファジミジン	0 / 5	ND	0.10	0.01

	スルファジメトキシシ	0 / 5	ND	0.2	0.01
	スルファチアゾール	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファドキシシ	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファベンズアミド	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 5	ND	0.02	0.01
	スルファメトキシピリダジシ	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメラジシ	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファモノメトキシシ	0 / 5	ND	0.02	0.01
鶏肉	オキシテトラサイクリン	0 / 5	ND	} 0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 5	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 5	ND		0.03
	ドキシサイクリン	0 / 5	ND	0.05	0.05
	エンフロキサシシ	0 / 5	ND	} 0.05	0.01
	シプロフロキサシシ	0 / 5	ND		0.01
	オフロキサシシ	0 / 5	ND	0.05	0.01
	サラフロキサシシ	0 / 5	ND	0.01	0.01
	ジフロキサシシ	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	ノルフロキサシシ	0 / 5	ND	0.02	0.01
	オキシリニック酸	0 / 5	ND	0.03	0.01
	フルメキン	0 / 5	ND	0.5	0.01
	スルファキノキサリシ	0 / 5	ND	0.05	0.01
	スルファクロルピリダジシ	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファジアジシ	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファジミジシ	0 / 5	ND	0.10	0.01
	スルファジメトキシシ	0 / 5	ND	0.05	0.01
	スルファチアゾール	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファドキシシ	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファベンズアミド	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 5	ND	0.02	0.01
	スルファメトキシピリダジシ	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメラジシ	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファモノメトキシシ	0 / 5	ND	0.1	0.01
エビ	オキシテトラサイクリン	0 / 15	ND	0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.03
	ドキシサイクリン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.05
	エンフロキサシシ	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	シプロフロキサシシ	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	オフロキサシシ	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	サラフロキサシシ	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	ジフロキサシシ	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	ノルフロキサシシ	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	オキシリニック酸	0 / 15	ND	0.03	0.01
	フルメキン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	スルファキノキサリシ	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	スルファクロルピリダジシ	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01

スルファジアジン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファジミジン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファジメトキシ	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファチアゾール	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファドキシ	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファベンズアミド	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファメトキサゾール	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファメトキシピリダジン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファメラジン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファモノメトキシ	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01

総検体数：30 検体 ND：定量限界値未満

10.24 国産食肉の残留医薬品試験結果

実施期間：令和7年8月～令和8年1月

品 名	試 験 項 目	検出数 / 検体数	検出値 ppm	基準値 ppm	定量限界値 ppm
牛肉	オキシテトラサイクリン	0 / 5	ND	0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 5	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 5	ND		0.03
	ドキシサイクリン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.05
	オキシリニック酸	0 / 5	ND	0.1	0.01
	フルメキン	0 / 5	ND	0.5	0.01
	ナリジクス酸	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファキノキサリン	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファジアジン	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファジミジン	0 / 5	ND	0.10	0.01
	スルファジメトキシ	0 / 5	ND	0.05	0.01
	スルファチアゾール	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファドキシ	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファピリジン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファベンズアミド	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキシピリダジン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメラジン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファモノメトキシ	0 / 5	ND	0.01	0.01
豚肉	オキシテトラサイクリン	0 / 9	ND	0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 9	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 9	ND		0.03
	ドキシサイクリン	0 / 9	ND	0.05	0.05
	オキシリニック酸	0 / 9	ND	0.02	0.01
	フルメキン	0 / 9	ND	0.5	0.01
	ナリジクス酸	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファキノキサリン	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 9	ND	0.05	0.01

	スルファジアジン	0 / 9	ND	0.1	0.01
	スルファジミジン	0 / 9	ND	0.10	0.01
	スルファジメトキシ	0 / 9	ND	0.2	0.01
	スルファチアゾール	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファドキシ	0 / 9	ND	0.1	0.01
	スルファピリジン	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファベンズアミド	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 9	ND	0.02	0.01
	スルファメトキシピリダジン	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメラジン	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファモノメトキシ	0 / 9	ND	0.02	0.01
鶏肉	オキシテトラサイクリン	2 / 10	ND ~ 0.03	} 0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 10	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 10	ND		0.03
	ドキシサイクリン	0 / 10	ND	0.05	0.05
	オキシリニック酸	0 / 10	ND	0.03	0.01
	フルメキン	0 / 10	ND	0.5	0.01
	ナリジクス酸	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファキノキサリン	0 / 10	ND	0.05	0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファジアジン	0 / 10	ND	0.1	0.01
	スルファジミジン	0 / 10	ND	0.10	0.01
	スルファジメトキシ	0 / 10	ND	0.05	0.01
	スルファチアゾール	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファドキシ	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファピリジン	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファベンズアミド	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 10	ND	0.02	0.01
	スルファメトキシピリダジン	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメラジン	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファモノメトキシ	0 / 10	ND	0.1	0.01

総検体数：24 検体 ND：定量限界値未満

10.25 輸入かんきつ類の防かび剤試験結果

実施期間：令和7年9月

品 名	試 験 項 目	検出数 / 検体数	検出値 $\mu\text{g/g}$	基準値 $\mu\text{g/g}$
オ レ ン ジ	イマザリル	5 / 5	1.3 ~ 2.4	5.0
	OPP 注1	0 / 5	ND	10
	ジフェニル	0 / 5	ND	70
	チアベンダゾール	5 / 5	0.59 ~ 1.9	10
グ レ ー プ フ ル ー ツ	イマザリル	2 / 2	1.3	5.0
	OPP 注1	0 / 2	ND	10
	ジフェニル	0 / 2	ND	70
	チアベンダゾール	2 / 2	0.23 ~ 0.40	10
レ モ ン	イマザリル	3 / 3	1.3 ~ 1.8	5.0
	OPP 注1	0 / 3	ND	10
	ジフェニル	0 / 3	ND	70
	チアベンダゾール	3 / 3	0.20 ~ 2.1	10

総検体数：10

注1：オルトフェニルフェノール及びオルトフェニルフェノールナトリウム

定量限界値：0.1 $\mu\text{g/g}$ ND：定量限界値未満

10.26 輸入食品における指定外添加物等の試験結果

実施期間：令和7年6月～令和7年11月

品 名	着 色 料		ハ°ラオキシ安息香酸メチル ・ ソルビン 酸		<i>tert</i> -ブチルヒドロキノン (TBHQ)		サイクラミン酸	
	検体数	結果	検体数	結果	検体数	結果	検体数	結果
缶 詰							3	ND
麺 類					1	ND		
菓 子 類	9	適	1	ND	9	ND	4	ND
ジ ャ ム			2	ND (ハ°ラオキシ安息香 酸メチル) ND ~ 0.55 g/kg 注1 (ソルビン酸)				
調 味 料			2	ND			1	ND
乾 燥 果 実			1	ND				
飲 料	1	適	4	ND (ハ°ラオキシ安息香 酸メチル) ND ~ 0.13 g/kg 注2 (ソルビン酸)			2	ND
定 量 限 界 値	—		0.005 g/kg (ハ°ラオキシ安息香酸メチル) 0.01 g/kg (ソルビン酸)		0.001 g/kg		0.005 g/kg	

総検体数：40 ND：定量限界値未満

注1：ソルビン酸基準値（ジャム）：1.0 g/kg(ソルビン酸として)

注2：ソルビン酸基準値（果実酒）：0.20 g/kg（ソルビン酸として）

着色料の検査項目：下記の38種類

指定外着色料（日本で使用が認められていないもの）：ナフトールイエローS、クリソイン、レッド10B、オレンジG、アシッドバイオレット7、ブリリアントブラックPN、イエロー2G、レッド2G、ウラニン、ファストレッドE、グリーンS、ボンソー2R、アズルビン、オレンジI、キノリンイエロー、マルチウスイエロー、ボンソーSX、ボンソー3R、エオシン、オレンジII、オレンジRN、アシッドブルー1、アミドブラック10B、パテントブルーV、アシッドグリーン9、ベンジルバイオレット4B（合計26種類）

許可着色料（日本で使用が認められているもの）：食用赤色2号、食用赤色3号、食用赤色40号、食用赤色102号、食用赤色104号、食用赤色105号、食用赤色106号、食用黄色4号、食用黄色5号、食用緑色3号、食用青色1号、食用青色2号（合計12種類）

10.27 米の成分規格試験結果

実施期間：令和7年9月

品名	検出数／検体数	検査結果（ppm）
		カドミウム
玄米	2／14	ND ～ 0.05

総検体数：14 玄米の成分規格：カドミウム含有量 0.4 ppm 以下

定量限界：0.02 ppm

ND：定量限界値未満

10.28 遺伝子組換え食品の試験結果

実施期間：令和7年7月

検査対象項目	品名	生産地	遺伝子組換え等の表示	試験結果
ダイズ穀粒	大豆	アメリカ	無表示	検出しない
	大豆	カナダ	無表示	0.12 %
	大豆	日本	組換えでない	陰性
	大豆	カナダ	分別生産流通管理済み	検出しない
	大豆	日本	分別生産流通管理済み	検出しない
	大豆	日本	無表示	検出しない
	大豆	日本	無表示	検出しない
	大豆	日本	無表示	検出しない
	大豆	日本	無表示	検出しない
	大豆	日本	無表示	検出しない

総検体数：10 定量PCR法の定量限界：0.10%，定性PCR法の検出限界：0.10%

食品表示における適合基準：「分別生産流通管理済み」及び「無表示」の場合、定量PCR法により遺伝子組換え食品の含有率5%以下、「組換えでない」の場合、定性PCR法により“陰性”

10.29 アレルゲン（特定原材料）を含む食品の試験結果

実施期間：令和7年12月

検査対象項目	品 名	検出数 / 検体数	検出値 $\mu\text{g/g}$
卵	菓 子 類	0 / 4	ND
	加 熱 食 肉 製 品	0 / 1	ND

総検体数：5 ND：1.0 $\mu\text{g/g}$ 未満対象特定原材料由来のタンパク質含量が10 $\mu\text{g/g}$ 以上のとき、微量を超える特定原材料が混入している可能性があるものと判断する。

10.30 器具・容器包装の規格試験結果

実施期間：令和7年6月

材 質 等		検 体 数	溶 出 試 験 ($\mu\text{g/mL}$)	
			鉛	カドミウム
ガ ラ ス	加熱調理用器具以外	10	ND	ND
陶 磁 器	加熱調理用器具以外	10	ND	ND

総検体数：20

ND：規格基準値の1/10 未満

規格基準 [ガラス製] 鉛：1.5 $\mu\text{g/mL}$ 以下，カドミウム：0.5 $\mu\text{g/mL}$ 以下（加熱調理用器具以外の容量600 mL未満のもの），鉛：0.75 $\mu\text{g/mL}$ 以下，カドミウム：0.25 $\mu\text{g/mL}$ 以下（加熱調理用器具以外の容量600 mL以上3 L未満のもの），[陶磁器製] 鉛：2 $\mu\text{g/mL}$ 以下，カドミウム：0.5 $\mu\text{g/mL}$ 以下（加熱調理用器具以外の容量1.1 L未満のもの）

10.31 貝毒検査結果

調査年月	品 名	麻痺性貝毒	
		検体数	検査結果 (MU/g)
令和7年 4月	マガキ	7	ND ～ 13
令和7年 5月	アサリ	4	ND ～ 15
令和7年 6月	マガキ	6	ND
令和7年 7月	マガキ	5	ND
令和7年 8月	イワガキ	5	ND
令和7年 9月	マガキ	4	ND
令和7年 10月	マガキ	6	ND
令和7年 11月	マガキ	6	ND
令和7年 12月	マガキ	6	ND
令和8年 1月	マガキ	5	ND
令和8年 2月	マガキ	6	ND
令和8年 3月	マガキ	6	ND

総検体数：66 ND：麻痺性貝毒 2.0 MU/g 以下，規制値：麻痺性貝毒 4 MU/g

10.32 家庭用品（繊維製品）の試買試験結果

実施期間：令和7年5月

区 分	品 名	試 験 項 目	検 体 数	結 果
生後24ヶ月以内 の乳幼児用	よ だ れ 掛 け	ホルムアルデヒド	2	適
	下 着		2	適
	外 衣		1	適
	外 衣 又 は 中 衣		1	適
	帽 子		1	適
	寝 衣		1	適
上記以外のもの	下 着	ホルムアルデヒド	1	適
	寝 衣		1	適

総検体数：10

繊維製品（有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律に基づく検査）

適の判定基準：生後24ヶ月以内の乳幼児用の基準値；A-Ao：0.05以下，その他の基準値：75 µg/g以下

10.33 浄水の検査結果の概要（検出された項目を記載）

検 出 項 目	検出数／検体数	検出値 mg/L	基準値 目標値 mg/L
一般細菌	1 / 5	3.5 個/mL	100 個/mL 以下
ヒ素及びその化合物	1 / 5	0.001	0.01 以下
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	34 / 34	0.09 ～ 1.79	10 以下
フッ素及びその化合物	12 / 29	0.08 ～ 0.25	0.8 以下
ホウ素及びその化合物	10 / 17	0.01 ～ 0.03	1.0 以下
塩素酸	7 / 46	0.06 ～ 0.13	0.6 以下
クロロホルム	3 / 46	0.001 ～ 0.004	0.06 以下
ジブromクロロメタン	38 / 46	0.001 ～ 0.008	0.1 以下
総トリハロメタン	38 / 46	0.001 ～ 0.017	0.1 以下
ブromジクロロメタン	20 / 46	0.001 ～ 0.005	0.03 以下
ブromホルム	33 / 46	0.001 ～ 0.006	0.09 以下
アルミニウム及びその化合物	1 / 5	0.02	0.2 以下
ナトリウム及びその化合物	17 / 17	6.4 ～ 15	200 以下
塩化物イオン	46 / 46	6.5 ～ 17	200 以下
カルシウム，マグネシウム等(硬度)	43 / 43	7.5 ～ 54	300 以下
蒸発残留物	5 / 5	73 ～ 154	500 以下
有機物(全有機炭素(TOC)の量)	2 / 5	0.3 ～ 0.5	3 以下
pH 値	5 / 5	6.4 ～ 6.9	5.8 以上 8.6 以下
従属栄養細菌	4 / 5	0.8 ～ 18	2000 個/mL 以下(暫定)

10.34 水道原水の検査結果の概要（検出された項目を記載）

検 出 項 目	検出数／検体数	検出値 mg/L	(参考) 浄水の基準値等(mg/L)
一般細菌	4 / 5	3.0 ～ 40 個/mL	100 個/mL 以下
ヒ素及びその化合物	1 / 5	0.001	0.01 以下
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	7 / 7	0.51 ～ 2.5	10 以下
フッ素及びその化合物	2 / 7	0.08 ～ 0.20	0.8 以下
ホウ素及びその化合物	1 / 7	0.01	1.0 以下
トリクロロエチレン	1 / 5	0.002	0.01 以下
アルミニウム及びその化合物	1 / 5	0.03	0.2 以下
ナトリウム及びその化合物	7 / 7	7.4 ～ 17	200 以下
塩化物イオン	7 / 7	8.7 ～ 23	200 以下
カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	7 / 7	15 ～ 54	300 以下
蒸発残留物	5 / 5	75 ～ 135	500 以下
有機物(全有機炭素(TOC)の量)	2 / 5	0.3	3 以下
pH 値	5 / 5	6.4 ～ 6.9	5.8 以上 8.6 以下
色度	1 / 5	0.5	5 度以下
濁度	1 / 5	0.1	2 度以下
遊離炭酸	5 / 5	13 ～ 26	20 以下
有機物等(過マンガン酸カリウム 消費量)	5 / 5	0.5 ～ 2.0	3 以下
腐食性(ランゲリア指数)	5 / 5	-2.5 ～ -2.0	-1 程度以上とし 極力 0 に近づける
ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペル フルオロオクタン酸(PFOA)	2 / 2	0.000025～0.000035	0.00005 以下(暫定)
侵食性遊離炭酸	5 / 5	13 ～ 25	

10.35 水道水質試験の検査項目

基 準 項 目 (51 項 目)		水 質 管 理 目 標 設 定 項 目 (27 項 目)
一般細菌	総トリハロメタン※ ¹	アンチモン及びその化合物
大腸菌	トリクロロ酢酸	ウラン及びその化合物
カドミウム及びその化合物	ブロモジクロロメタン	ニッケル及びその化合物
水銀及びその化合物	ブロモホルム	1,2-ジクロロエタン
セレン及びその化合物	ホルムアルデヒド	トルエン
鉛及びその化合物	亜鉛及びその化合物	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)
ヒ素及びその化合物	アルミニウム及びその化合物	亜塩素酸
六価クロム化合物	鉄及びその化合物	二酸化塩素
亜硝酸態窒素	銅及びその化合物	ジクロロアセトニトリル
シアン化物イオン及び塩化シアン	ナトリウム及びその化合物	抱水クロラール
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	マンガン及びその化合物	農薬類※ ²
フッ素及びその化合物	塩化物イオン	残留塩素
ホウ素及びその化合物	カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	カルシウム、マグネシウム等 (硬度)
四塩化炭素	蒸発残留物	マンガン及びその化合物
1,4-ジオキサン	陰イオン界面活性剤	遊離炭酸
シス及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	ジェオスミン	1,1,1-トリクロロエタン
ジクロロメタン	2-メチルイソボルネオール	メチル-tert-ブチルエーテル
テトラクロロエチレン	非イオン界面活性剤	有機物等 (過マンガン酸カリウム消費量)
トリクロロエチレン	フェノール類	臭気強度 (TON)
ベンゼン	有機物 (全有機炭素 (TOC) の量)	蒸発残留物
塩素酸	pH 値	濁度
クロロ酢酸	味	pH 値
クロロホルム	臭気	腐食性 (ランゲリア指数)
ジクロロ酢酸	色度	従属栄養細菌
ジブロモクロロメタン	濁度	1,1-ジクロロエチレン
臭素酸		アルミニウム及びその化合物
		ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) 及びペルフル オオクタン酸 (PFOA)

※¹ クロロホルム、ジブロモクロロメタン、ブロモジクロロメタン及びブロモホルム、各濃度の総和。

※² 農薬類には令和4年4月1日付けで115種類、平成31年4月1日付けで114種類、平成20年4月1日付けで102農薬が設定されている。

10.36 水質管理目標設定項目の農薬類（115 種※）

殺 虫 剤	殺 菌 剤	除 草 剤
1,3-ジクロロプロペン（D-D） EPN アセフェート アミトラズ イソキサチオン イソプロカルブ（MIPC） イソプロチオラン（IPT） エトフェンプロックス エンドスルファン（ベンゾエピン） オキサストロビン（殺菌） カズサホス カルタップ（殺菌，除草） カルバリル（NAC） カルボフラン （カルボスルファン代謝物） クロルピリホス シアノホス（CYAP） ジクロロボス（DDVP） ジスルホトン（エチルチオメトン） ジメトエート ダイアジノン チアジニル（殺菌） チオジカルブ トリクロルホン（DEP） ピリダフェンチオン フィプロニル フェニトロチオン（MEP） フェノブカルブ（BPMC） フェリムゾン（殺菌） フェンチオン（MPP） フェントエート（PAP） ブプロフェジン プロチオホス ベンフラカルブ ホスチアゼート マラチオン（マラソン） メソミル メチダチオン（DMTP） メトミノストロビン（殺菌）	イソフェンホス イプロベンホス（IBP） イミノクタジン オキシ銅（有機銅） キャプタン クロロタロニル（TPN） ジチオカルバメート系農薬 ダゾメット，メタム（カーバム）及 びメチルイソチオシアネート チウラム チオファネートメチル トリシクラゾール ピロキロン フサライド フルアジナム プロシミドン プロピコナゾール プロベナゾール ベノミル ペンシクロン メタラキシル メプロニル	2,2-DPA（ダラポン） 2,4-D（2,4-PA），MCPA アシュラム，アトラジン アニロホス，アラクロール イプフェンカルバゾン インダノファン エスプロカルブ オキサジクロメホン カフェンストロール キノクラミン（ACN） クミルロン，グリホサート グルホシネート クロメプロップ クロルニトロフェン（CNP） シアナジン ジウロン（DCMU） ジクロベニル（DBN） ジクワット，ジチオピル シハロホップブチル シマジン（CAT） ジメタメトリン，シメトリン ダイムロン チオベンカルブ テフリルトリオン テルブカルブ（MBPMC） トリクロピル トリフルラリン ナプロパミド パラコート，ピペロホス ピラクロニル ピラゾキシフェン ピラゾリネート（ピラゾレート） ピリブチカルブ フェントラザミド ブタクロール ブタミホス プレチラクロール プロピザミド，プロモブチド ベンゾビシクロン ベンゾフェナップ ベントゾン ペンディメタリン ベンフルラリン（ベスロジン） ベンフレセート メコプロップ（MCPP） メトリブジン メフェナセート モリネート

※ 令和4年4月1日付けで設定された115農薬のリスト。すべての農薬が検査の対象。

10.37 水質管理目標設定項目の農薬類（102 種※）

殺 虫 剤	殺 菌 剤	除 草 剤
1,3-ジクロロプロペン（D-D） イソキサチオン ダイアジノン フェントロチオン（MEP） ジクロロボス（DDVP） フェノブカルブ（BPMC） EPN カルボフラン （カルボスルファン代謝物） アセフェート クロルピリホス トリクロルホン（DEP） ピリダフェンチオン カルバリル（NAC） イソプロカルブ（MIPC） メチダチオン（DMTP） ジメトエート エンドスルファン （エンドスルフェート、ベンゾエピン） エトフェンプロックス フェンチオン（MPP） マラソン（マラチオン） メソミル ベンフラカルブ フェントエート（PAP） ブプロフェジン エチルチオメトン チオジカルブ ピリプロキシフェン フィプロニル	チウラム クロロタロニル（TPN） イプロベンホス（IBP） イソフェンホス イプロジオン エトリジアゾール（エクロメゾール） オキシシン銅 キャプタン クロロネブ <u>トルクロホスメチル</u> フルトラニル ペンシクロン メタラキシル メプロニル エディフェンホス （エジフェンホス、EDDP） ピロキロン フサライド チオフアネートメチル カルプロパミド プロシミドン ベノミル プロベナゾール トリシクラゾール <u>アゾキシストロビン</u> イミノクタジン酢酸塩 <u>ホセチル</u> ポリカーバメート プロピコナゾール イソプロチオラン（IPT）	シマジン（CAT） チオベンカルブ プロピザミド クロルニトロフェン（CNP） CNP-アミノ体 ベンタゾン 2,4-ジクロロフェノキシ酢酸（2,4-D） トリクロピル アシュラム ジチオピル テルブカルブ（MBPMC） ナプロパミド ピリブチカルブ ブタミホス ベンスリド（SAP） ベンフルラリン（ベスロジン） ペンディメタリン メコプロップ（MCP） メチルダイムロン アラクロール メフェナセツト プレチラクロール テニルクロール ブロモブチド モリネート アニコホス アトラジン ダラポン ジクロベニル（DBN） ジクワット ジウロン（DCMU） グリホサート シメトリン ジメピペレート エスプロカルブ ダイムロン ビフェノックス ベンスルフロニメチル ピペロホス ジメタメトリン <u>ハロスルフロニメチル</u> フラザスルフロニ <u>シデュロン</u> トリフルラリン カフェンストロール

※ 平成 20 年 4 月 1 日付けで設定された 102 農薬のリスト。

このうち、下線の農薬は水質管理目標設定項目の農薬類(115 種)に含まれない農薬で検査を実施したもの。

10.38 温泉水の検査項目と試験結果（濃度範囲）

検 査 項 目	濃 度 範 囲	温 泉 の 定 義	療 養 泉 の 定 義
泉温(℃)	18.9 ～ 96.2	25≦	25≦
湧出量 (L/min)	3 ～ 556		
pH	5.88 ～ 8.73		
電気伝導率 (S/m)	0.0322 ～ 0.966		
ラドン(Bq/kg)	< 7.4 ～ 90	74≦	111≦
蒸発残留物(g/kg)	0.229 ～ 5.822		
リチウムイオン(mg/kg)	< 0.1 ～ 5.23	1≦	
ナトリウムイオン(mg/kg)	51.1 ～ 1950		
アンモニウムイオン(mg/kg)	< 0.1 ～ 0.9		
カリウムイオン(mg/kg)	0.28 ～ 70.3		
マグネシウムイオン(mg/kg)	0.23 ～ 37.1		
カルシウムイオン(mg/kg)	1.69 ～ 404		
ストロンチウムイオン(mg/kg)	0.14 ～ 5.43	10≦	
バリウムイオン(mg/kg)	< 0.1 ～ 0.59	5≦	
アルミニウムイオン(mg/kg)	< 0.1		
マンガン (Ⅱ) イオン(mg/kg)	< 0.1 ～ 0.56	10≦	
総鉄イオン (Fe ²⁺ +Fe ³⁺) (mg/kg)	< 0.1 ～ 32	10≦	20≦
ふっ化物イオン(mg/kg)	0.79 ～ 14.5	2≦	
塩化物イオン(mg/kg)	13.6 ～ 2240		
臭化物イオン(mg/kg)	< 0.1 ～ 7.4	5≦	
よう化物イオン(mg/kg)	< 0.1 ～ 0.83	1≦	10≦
硫酸イオン(mg/kg)	< 0.1 ～ 207		
炭酸水素イオン(mg/kg)	49 ～ 1760	340≦ (炭酸水素ナトリウムとして)	
炭酸イオン(mg/kg)	< 0.1 ～ 27.7		
メタけい酸(mg/kg)	24.7 ～ 182	50≦	
メタほう酸(mg/kg)	3.35 ～ 143	5≦	
メタ亜ひ酸(mg/kg)	< 0.1 ～ 0.27	1≦	
溶存物質(ガス性のものを除く) (g/kg)	0.244 ～ 6.51	1≦	1≦
遊離二酸化炭素 (遊離炭酸) (mg/kg)	< 0.1 ～ 2030	250≦	1,000≦
総硫黄(S) [HS ⁻ +S ₂ O ₃ ²⁻ +H ₂ S に対応するもの] (mg/kg)	< 0.1 ～ 0.83	1≦	2≦
成分総計(g/kg)	0.245 ～ 8.21		
総ひ素(mg/kg)	< 0.02 ～ 0.07		
総水銀(mg/kg)	< 0.00005		
銅(mg/kg)	< 0.01 ～ 0.03		
亜鉛(mg/kg)	< 0.01 ～ 0.12		
鉛(mg/kg)	< 0.01		
カドミウム(mg/kg)	< 0.01		

兵庫県立健康科学研究所業務年報

令和 8 年度（2026 年度）

発 行 令和 8 年 9 月 30 日

発行者 今 井 雅 尚

発行所 兵庫県立健康科学研究所

加古川市神野町神野 1819 番地の 14

TEL : 079-440-9090 FAX : 079-438-5570

URL : <https://web.pref.hyogo.lg.jp/iphs01/top01.html>

